ISSN 1882-7136

京都外国語大学大学院紀要

言語と文化

第17号

March 2023

Language and Culture

研究論文

清末期における通州師範学校の日本留学生の実態の調査
——留学生の派遣の原因と張謇氏の人材育成の理念をめぐって… 王　昊天

中国語における
「人で終わる使役を表す形容詞」の用い方の特徴の考察
——“感人”の歴史的変遷及びその日本語訳の特徴を考えて…… 尚　煜琛

中国語の “把” 構文の特徴の研究にかかわる諸問題の考察
——中国語学習者にいかに指導するかを考えて…… 李　政澤

日本語と中国語の形容詞の特徴に関わる諸問題の考察…… 金　東昊

〈能力義〉発現の要件
——中国語助動詞 “会” を中心に…… 李　東

漢字圏日本語学習者に難解な日本語
——「よく」の用い方や誤用傾向についての考察…… 趙　璇

京都外国語大学

言語と文化

第17号　2023年3月

目　次

研究論文

清末期における通州師範学校の日本留学生の実態の調査
――留学生の派遣の原因と張謇氏の人材育成の理念をめぐって …… 王　昊天　1

中国語における「人で終わる使役を表す形容詞」の用い方の特徴の考察
――“感人”の歴史的変遷及びその日本語訳の特徴を考えて …… 尚　煜琛　13

中国語の“把”構文の特徴の研究にかかわる諸問題の考察
――中国語学習者にいかに指導するかを考えて …… 李　政澤　25

日本語と中国語の形容詞の特徴に関わる諸問題の考察 …… 金　東昊　39

〈能力義〉発現の要件
――中国語助動詞“会”を中心に …… 李　東　55

漢字圏日本語学習者に難解な日本語
――「よく」の用い方や誤用傾向についての考察 …… 趙　璇　69

編集後記 …… 85

Language and Culture

Vol. 17 March 2023

CONTENTS

Articles

A Survey and Research on International Students (studied in Japan)
from China Tongzhou Normal School····· WANG Haotian 1

A study of "causative express" adjective words end with "Ren"
in Chinese language····· SHANG Yuchen 13

A Study of Problems Related to the Study of the Characteristics
of the Chinese "Ba" syntax:
Thinking about how to teach Chinese language learners····· LI Zhengze 25

Differences between the Japanese adjective suffixes "sa" and "mi"
and the characteristics of the Chinese translation ····· JIN Donghaoa 39

Conditions for the Expression of Competence:
Focusing on the Chinese Auxiliary Verb "hui" ····· LI Dong 55

Difficult Japanese for Kanji-Speaking Learners of Japanese:
A discussion of the usage and misuse trends of "yoku" ····· ZHAO Xuan 69

Editor's postscript ····· 85

清末期における通州師範学校の日本留学生の実態の調査

留学生の派遣の原因と張謇氏の人材育成の理念をめぐって

王 昊天

要 旨

本研究では、清末期における通州師範学校の日本留学生の実態を調査し、これらの日本留学生が果たした歴史的役割と私立学校としての通州師範学校の独自の発展モデルについて、また、張謇氏の人材育成の理念について考察した。当時の通州師範学校が直面した困難を研究焦点とし、官立学校であった両江師範学堂と比較しつつ、私立学校としての通州師範学校が当時、資金不足に陥っていたことを指摘し、通州師範学校が日本への留学生派遣の背景には、資金不足による妥協点であったことを主張した。妥協点はあっても、３回にわたる日本への留学生派遣は、張謇氏の教育改革の展開に応えるものであり、張謇氏と通州師範学校もこれらの留学生を助けるために全力を尽くした。そこから張謇氏の教員人材育成、教育管理者人材育成の理念が窺えた。

１．はじめに

中国では、1896年盛宣懐氏が設立した南洋公学師範院、1902年清朝政府が設立した京師大学堂師範館、1902年張謇氏[1)]が設立した通州民立師範学校が、中国の最初の師範学校であり、師範教育の３つの源とも言える。

通州は清朝の地名であった。中国の首都北京にも通州という地名があるが、本論文で言う通州は江蘇省の通州を指し、南に位置することから「南通州」とも呼ばれていた。現在では江蘇省南通市となっている。

南洋公学師範院は大官僚である盛宣懐氏が経営した公立大学、京師大学堂師範館は清朝中央政府が経営した国立大学、張謇氏の創設した通州師範学校（以下は「通師」と略す）は中国初の民間資本による経営の私立学校であった。それゆえ、私立学校としての「通師」には独自の発展モデルがあったと筆者は考えている。

本論文では、中国の最初の師範学校３校のうち張謇氏が設立した私立の「通師」にしぼり、留学生の派遣の要因と背景、日本留学生の活動を調査し、「通師」の日本留学生が果たした歴史的役割と私立学校としての「通師」の独自の発展モデルを明らかにすることを目指す。

1）張謇氏（1853～1926）は中国近代の著名な民族資本家、教育家、日本の渋沢栄一に肩を並べられるほどの人物である。

現存している「通州師範学校教習表」と「女師範教習表」[2]により、張謇氏が設立した私立の「通師」は京都外国語大学の創設者・森田一郎氏の両親吉沢嘉寿之丞氏と森田政夫妻が「教習」として教鞭をとっていた学校だったことが分かった。吉沢・森田夫妻と張謇氏とのかかわり、中国師範教育への貢献などに関しては他の論文に譲る。

曹炳生、都樾の『吉澤嘉寿之丞和森田政夫婦在南通任教档案資料集』[3]によると、吉澤嘉寿之丞氏が1904年から1914年までの10年間、通州師範学校と如皋師範学校で数学、理科、製図を教えていた。また、1916年に松本亀次郎氏とともに東亜高等予備学校を共同設立した。森田政氏は通州女子師範学校（中国最初の女子師範学校）の教習を職務していた以外、張謇氏の長男である張孝若氏の家庭教師も担当していた。また中国の最初の「唱歌」の創作にもかかわったという。この研究から本大学創設の背景の一端が窺える。

本論文で取り上げる「教習」とは明の時代、翰林院で進士の師となる者を指し、官職名として使われるようになった。この制度は清朝でも採用され、清朝末期に新式学堂が始まると、新式学堂の教師は「教習」とも呼ばれるようになった。

1903年、大阪で「第５回内国勧業博覧会」が開催された際、張謇氏は当時の在江寧日本総領事（江寧は現・中国江蘇省南京市）・天野恭太郎氏の招きで、４月27日日本の船「博愛丸」で出発し、６月６日に上海に戻るまで約70日間にわたり、日本で実地考察を行っていた。この間、張謇氏は日本の実業、商業、教育などの領域に着目し、その実態を考察していた。特に小学校と女子学校などを訪問した。そして、張謇氏は帰国後、日本人教習を何人か南通に招いた。日本人教習は、張謇氏の期待に応え、南通地域をはじめ中国全土の教育の近代化に大きく貢献した。

張謇氏は、「外材」（外国人人材）を積極的に採用しただけでなく、「内材」（中国人人材）の育成も重要視していた。『通州師範学校職員表・学生録　宣統三年』[4]では、「通師」は1904年～1907年の間、学生14名を日本に派遣し、留学させていた。表１は、日本に留学した通州師範学校の学生一覧である[5]。

2. 先行研究の検証

「通師」の14名の日本留学生については、２つの先行研究で取り上げられている。

朱嘉耀（2012）は、14名の日本留学生の派遣の目的を研究し、次のように指摘している[6]。

2）『通州師範学校職員表・学生録 宣統三年』、翰墨林印書局、1911年、p.5。
3）曹炳生・都樾編『吉澤嘉寿之丞和森田政夫婦在南通任教档案資料集』（非売品）、2018年。
4）『通州師範学校職員表・学生録 宣統三年』、翰墨林印書局、1911年、pp.41-42。
5）朱嘉耀「通师早期派送的留学生情况表」『南通師範学校史 第一卷 記事』、南京師範大学出版社、2012年、pp.197-198。留学時間、学校など誤りがあったため、筆者が訂正した。
6）朱嘉耀『南通師範学校史 第一卷 記事』、南京師範大学出版社、2012年、p.194。

表１ 日本に留学した通州師範学校の学生一覧

名前	出身地	クラス	留学学校	留学時間
曹文麟	通州	第一次本科	日本大学高等師範部*1	1904.3～1908
趙邦容	如皋	第一次本科	東洋大学師範科*2	1904.3～1910
王福基	如皋	第一次講習科	宏文学院速成師範科	1904.3～1905.1
李元蘅	通州	第一次講習科	宏文学院速成師範科	1904.3～1905.1
樊璞	海门	第一次講習科	宏文学院速成師範科	1904.3～1905.1
繆文功	东台	第二次本科	宏文学院速成師範科	1904.3～1905.1
陶弼原	东台	第二次本科	日本体育会体操学校*3	1905～1906
黄家瑞	如皋	第二次本科	日本体育会体操学校	1905～1906
泰汝礪	通州	第二次本科	宏文学院速成師範科	1905～1906
李长基	太仓	第二次本科	宏文学院速成師範科	1905～1906
杨安仁	通州	第二次本科	宏文学院速成師範科	1905～1906
熊輔龍	武进	第二次本科	千葉医学専門学校*4	1905～1911.9
于忱	通州	第一次本科	早稲田大学清国留学生部師範本科博物学科*5	1907.2～1909.12
尤慎铭	通州	第一次本科	早稲田大学清国留学生部師範本科博物学科	1907.2～1909.12

＊1 原文では「明治大学師範科」となっているが、当時の明治大学には師範科がなかった。筆者が曹文麟の日記を調べた結果、彼の留学先は日本大学高等師範科であることが判明した。
＊2 哲学館師範科とする説もあるが、趙邦容が入学したのは1907年で、そのころは東洋大学と改称されていた。
＊3 日本体育会体操学校は、1891年で東京市牛込区に創設された体育会から改称、1900年に各種学校となり、本科１年、別科６ヶ月の課程を置き、日本体育大学の前身である。
＊4 千葉医学専門学校は1901年４月１日文部省直轄諸学校官制改正勅令第24号により官立第一高等中学校から千葉医学専門学校として独立した。修学コースは医学科と薬学科があった。医科科は４年制、薬科科は３年制であり、千葉大学医学部の前身である。
＊5 早稲田大学清国留学生部は1905年９月に開設され、1910年９月、早稲田大学側は清国政府の「新しい留学生教育は日本人学生の教育と同じ」の要求に応え、清国留学生部が閉鎖された。修学年数は予備科１年、本科２年、合計３年である。当時、留学生の教育機関は半年から１年という課程が主流であったのに対して、早稲田大学清国留学生部は１年以上、3年までの長期的な教育を行っていた。

「其主要目的：一是为通州师范学校和南通地方发展新式教育迅速培养一批优秀而可靠的师资人才；二是为南通地方社会和经济的发展培养近代化的建设人才。」

（その主な目的は、第一に、「通師」と南通市の新型教育の発展のために、優秀で信頼できる教師を早くたくさん育成すること、第二に、南通市の地域社会と経済の発展、現代化実現のための人材を養成することである。）

劉佳（2019）は、『張謇の南通における近代教育普及への貢献――日本モデルの教育制度の受容を中心に――』で「これらの留学生は、帰国後、その能力を教育現場で発揮しただけでなく、学校の運営、教育体制や組織構成の改革にも意欲的に取り組んだ」、と指摘している[7)]。

特に于忱氏と尤金緘氏２人について、劉佳（2019）は「完全な近代的師範教育の管理体

7）劉佳『張謇の南通における近代教育普及への貢献――日本モデルの教育制度の受容を中心に――』、東京学芸大学博士論文、2019年、p.167。

系を作り上げ、民国時代の学校の飛躍的な発展の基礎をしっかり築いた」と絶賛している[7)]。しかし、劉佳（2019）はこれらの留学生に関する具体的な調査は行わなかった。

3. 留学生の派遣の背景

3.1「違法」の形で働いていた日本人教習

1903年清国政府が公布した『奏定学堂章程』には、師範学堂の教習の招聘について、次のような規定があった[8)]。

> 省城师范学堂，或聘外国人为教员、或辅以曾学外国师范毕业之师范生。外府师范学堂则只可聘在中国学成之师范生为教员……
>
> （省城の師範学堂は、外国人を招聘して教員となし、あるいは嘗て外国の師範学校で学んで卒業した師範生を充てる。一方、外の府にある師範学堂は、国内の師範学堂の卒業生しか採用できない。）

清朝末期における近代師範学堂は、教習不足に悩まされた。特に、自然科学分野の教師が不足していた。上記の規定では、師範学堂の教員招聘について、外国人教習および外国の高等教育機関を卒業した中国人を雇用できるのは、省城に設立された師範学堂のみとされている。

「通師」の設立当初は、教師不足の問題を解決するために、先ずは、東京物理学校を卒業した王国維氏や東京高等師範学校を卒業した陳師曾氏など、日本の高等学校に留学した中国人を採用し、さらに日本人８名を次々と教習として採用した。

しかし、当時の通州は、江蘇省の管轄下の直轄州で、江蘇省省政府の所在地ではないため、通州の小学校の教員育成を中心とした私立の初級師範学堂である「通師」は、外国人や留学帰りの中国人を教習として直接採用することは法律上禁じられていた。また、この８名の通州師範学校の日本人教習については、日本外務省が公布したこの時期の中国での日本人教習に関する公文書である「清国傭聘本邦人名表」[9)]にも記録されていなかった。それゆえ、この８名の日本人教習は「違法」の形で「通師」で働いていたと筆者は考えている。

これらの日本人教習と清国法律では認められていない「通師」との間の唯一のつながりは、張謇氏の抜群の力による個人的なルートであった。張謇氏は違法責任を問われることを顧みず、信頼できる優秀な人材を育成することが急務と認識していたことが考えられる。

8）日本外務省第一課『外国官庁ニ於テ本邦人雇入関係雑件　清国之部　職掌其他応聘員数等調査』、1909年。
9）張之洞『奏定学堂章程・学務綱要』、1904年。

3.2 私立学校としての「通師」の資金不足

「通師」は、中国最初の民間資本が運営する私立師範学校であるため、当時続々と建設された公立学堂と比べて、資金面では不利だったのは当然である。特に教職員の給与水準は、政府が運営する公立学堂とは比較にはならないほど低かった。下の表２は、清朝末期の両江総督である張之洞氏が設立し、江蘇省政府が運営していた官立師範学校である両江師範学堂の1907年の支出予算[10]、図１は「通師」1902～1911年職員給料の支出変化一覧である[11]。

図１で分かるように、この時期の「通師」の教職員の給与の支出は、年々増加しているものの、常に官立学校の両江師範学堂の20％以下であった。表２のデータから計算すると、両江師範学堂の日本人教習の平均給与は月236元、中国人教習の平均給与は月98

表２ 1907年度両江師範学堂本部支出予算一覧 単位：龍洋（元）

支出項目	人数	支出数	百分比
職員給料	10	14,784	9.52
中国人教習給料	26	30,840	19.85
日本人教習給料	13	36,900	23.75
書記給料	15	2,160	1.39
夫役食料費	101	6,852	4.41
教職員食料費	64	2,304	1.48
学生食料費	600	21,600	13.91
図書標本計器			
行政設備及び雑用		39,912	25.69
小 計		155,352	100

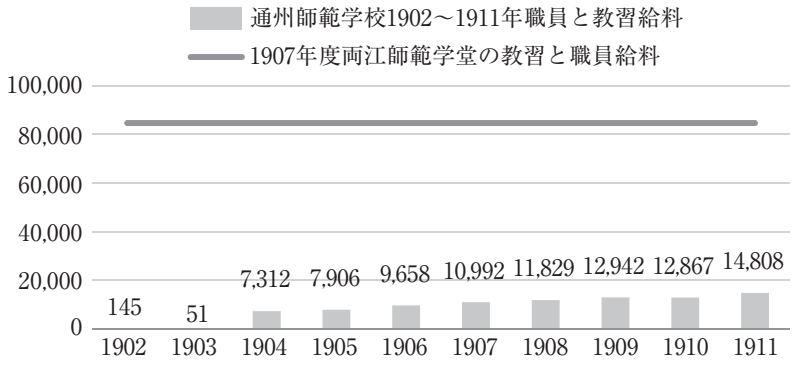

図１　通州師範学校 1902 ～ 1911 年職員給料の支出変化一覧
単位：龍洋（元）

10）南京大学校史博物館のホームページにあった「南大校史」の「六．三江、両江的办学经费」。〈https://historymuseum.nju.edu.cn/jypx/ndxs/ndxs/zydxjqqs19021949/dyzsjljsfxt19021912/lsljldbxjf/index.html〉（2022.10.27の画面である）。
11）「通師十年度支略」（『南通師範校友会雑誌』第４期、翰墨林印書局、1914年、pp.1-34）によって作成する。

元であった。

一方、この時期、「通師」の中国人教習の最高位である王国維氏の月給はわずか70元、日本人教習の西谷氏は100元、木村氏は120元で、後に150元に引き上げられたが、それでも両江師範学堂の平均水準には達していなかった。

当時は、全国各地で新式学堂が続々と設立され、教習が極端に不足している時期でもあった。教習を誘致するために高い給料を出すのはごく普通で、私立学校としての「通師」はその中で不利な立場にあったと考えられる。それゆえ、「通師」では、教習が赴任した後すぐに辞めてしまったというケースがよくあった。例えば、南洋公学出身の祝君舜は英語教習として教えていたが、わずか５ヶ月で退職してしまった。楽歌教習である夏清貽は２カ月しか在職しなかった[12)]。

この背景もあり、張謇氏と「通師」は、自前の教員を養成し、確保することが最優先の課題となった。実際、数年の発展を経て、「通師」の教職員の大半は同校の卒業生、一部は海外留学組の卒業生であった。

3.3 日本語が堪能な人材への需要

当時の「通師」の日本人教習は中国語を知らないため、授業中の通訳として日本語が堪能な人が必要であった。さらに、この時期、師範学堂で使われていた教科書はほとんど日本から輸入されたものであった。「通師」では、プロの通訳を追加で雇う余裕がなかったため、日本に留学していた中国人教師が通訳を兼任していた。しかし、それらの中国人教師は少ない上に、自分の授業も担当していたため、日本人教習全員の授業の通訳はとても無理だった。一部の日本人教習の授業は、通訳なしで行われていたと見られる。

この問題を解決するため、「通師」では、日本語の読み書きを師範本科の必修科目とし、日本語を教えることができる人材を求めた。『通州師範学校学課章程』[13)]により、師範本科の１週間の授業は36時間で、日本語課程に割り当てられた時間は、学年によって９時間、３時間、４時間となっていた。この授業時間は中国国文をも上回るほどであった。「通師」では日本語を教える教習も多く、日本へ学生を派遣したことからも日本語が堪能な人材を育成するという考慮があったと筆者は考えている。

4. 宏文学院速成師範科と張謇氏

宏文学院は、明治時代清国からの留学生のために、著名な教育家である嘉納治五郎氏が日本に創立した教育機関である。修学コースは普通科と速成科があり、普通科は原則３年で修了するが、実際には最長でも２年10ヶ月しかなく、多くは１年程度で卒業する。

12)「通州師範学校学課章程」(朱有瓛『近代学制史料　第二輯 下』、華東師範大学出版社、1989年、p.316)。
13)朱有瓛「江蘇南通師範学校教員学生録」「近代学制史料　第二輯 下』、華東師範大学出版社、1989年、pp.309-310。

速成師範科の期間はさらに短く、６ヶ月から11ヶ月がほとんどである。1907年以降、速成科は廃止された。当時、外国人留学生のための教育機関としては、間違いなく日本最大規模であった。

当時、嘉納治五郎氏は東京高等師範学校の校長も務めていた。それゆえ、多くの東京高等師範学校の教師が同時に宏文学院で教師を務めていた。また、多くの大学教授も宏文学院の講師を兼任していた。宏文学院は速成教育機関であったが、教員陣は非常に豪華であった。

1903年、張謇氏は日本を訪れた際、嘉納治五郎氏と出会い、日本の学校を訪問して調査する目的で嘉納氏と交流した。その後、張謇氏は嘉納氏の案内で東京高等師範学校を訪問した。帰国してからも張謇氏と嘉納氏との手紙のやりとりがずっと続いた。「通師」の14名の日本に留学した学生のうち、７人が宏文学院に留学したが、これは張謇氏と嘉納治五郎氏の個人的な親交の結果でもあった。

5. 留学生の派遣の経費

1904年から1907年にかけて、「通師」は３回にわたって学生や教師を日本に派遣した。このうち、曹文麟氏と趙邦容氏は自費で留学し、他の12人は学校の公費で日本に留学した。以下の表３は通州師範学校の日本留学生の留学機関と資金源の一覧である。

表３　留学機関と資金源の一覧

年	学校名	資金	人数	学校性質
1904	日本大学高等師範部	自費	1	高等教育機関
	東洋大学教育学科	自費	1	高等教育機関
	宏文学院速成師範科	公費	4	速成教育機関
1905	宏文学院速成師範科	公費	3	速成教育機関
	日本体育会体操学校		2	体操各種学校
	千葉医学専門学校		1	医学専門学校
1907	早稲田大学清国留学生部師範本科博物学科	公費	2	長期留学生の教育機関

自費留学生２名のほか、残りの公費留学生12名のうち７名が宏文学院速成師範科、２名が早稲田大学清国留学生部師範本科博物学科、２名が日本体育会体操学校、１名が千葉医学専門学校に留学していた。

具体的な支出については、「通師十年度支略」[14]により、通州師範学校が1905年、1907年、1908年、1909年にそれぞれ1,004元、400元、1,120元、760元を日本に留学した学生への補助金として支出した。1904年から1906年までの日本滞在中の公費留学生は10人で、

14)「通師十年度支略」『南通師範校友会雑誌』第４期、翰墨林印書局、1914年、pp.1-34。

いずれも１年間の速成教育コースであったため、１人当たりの年間平均補助額は約100元、1907年から1909年までの間は３人留学、１人当たりの年間平均補助額は約253元であった。この４年の「通師」の支出総額は107,392元、そのうち日本留学生への補助額は3,284元で、約3.05％であった。注目すべきは、「通師十年度支略」に掲載されている「通師」の支出額には、通州附属小学校、南通博物館、南通農学校の支出も含まれているため、実際には、日本留学生への補助金支出の割合はもっと高くなるはずである。

6. 張謇氏の地方自治における日本留学生の役割

南通に戻った張謇氏は、南通の地方自治に取り組み始めた。「張謇氏にとって地方自治は、政界や官界を自由に出入りするための政治的遺産であった」[15)]。それゆえ、張謇氏は南通を実験場として、後半生にわたって地方自治の実現に力を注いだ。教育、実業、慈善、医療などの分野で、張謇氏は南通で大きな成功を収め、急速に近代化が進んだ。張謇氏の教育改革活動も、地方自治の中で進められていった。

「通師」の日本に留学した学生の多くは、教習だけでなく、南通の地方教育の管理者にもなった。張謇氏が大きな期待を寄せていた日本留学生は、「通師」の信頼かつ優秀な新式教育教習の不足が深刻化する中で日本に派遣されたが、その後の活動から分かるように、張謇氏の教育改革と地方自治の展開に重要な役割を果たしたと筆者は評価する。

6.1 教育会と「通師」の日本留学生

1906年、清朝中央政府は『教育会章程』を公布し、各地に教育集会が設けられた。教育会の運営は、張謇氏の地方自治、特に地方教育自治に大きな役割を果たした。張謇氏自身も江蘇省教育総会の会長に就任し、南通地区の教育分会の活動を強力に支援した。日本留学生のうち、李元蘅氏、曹文麟氏、于忱氏はいずれも南通教育会の会長、樊璞氏は海門教育協会の会長を長年にわたって務めた。

6.2 陶駟原氏の体育教育の研究

陶駟原氏は1904年、「通師」師範本科第二期生として入学した。1905年黄家瑞氏とともに日本へ渡って日本体育会体操学校に留学し、帰国後「通師」の体育教習を務めた。

最近、発見したのだが、陶駟原氏は1904年～1907年の間、日本体育会の学術雑誌『體育』（155号、161号、163号）に、論文「體操之訓練的目的及教授上之注意」、記事「通州師範學校模範運動會趣旨書」、体操紹介「蓮華行進（四拍子）」と「新式慕奈利」が掲載されている。これは、通州師範学校の留学生が海外の学術誌に発表した、最も早い論文である。

15）周新国・張慎欣編『張謇辞典』、広陵書社、2021年、p.224。

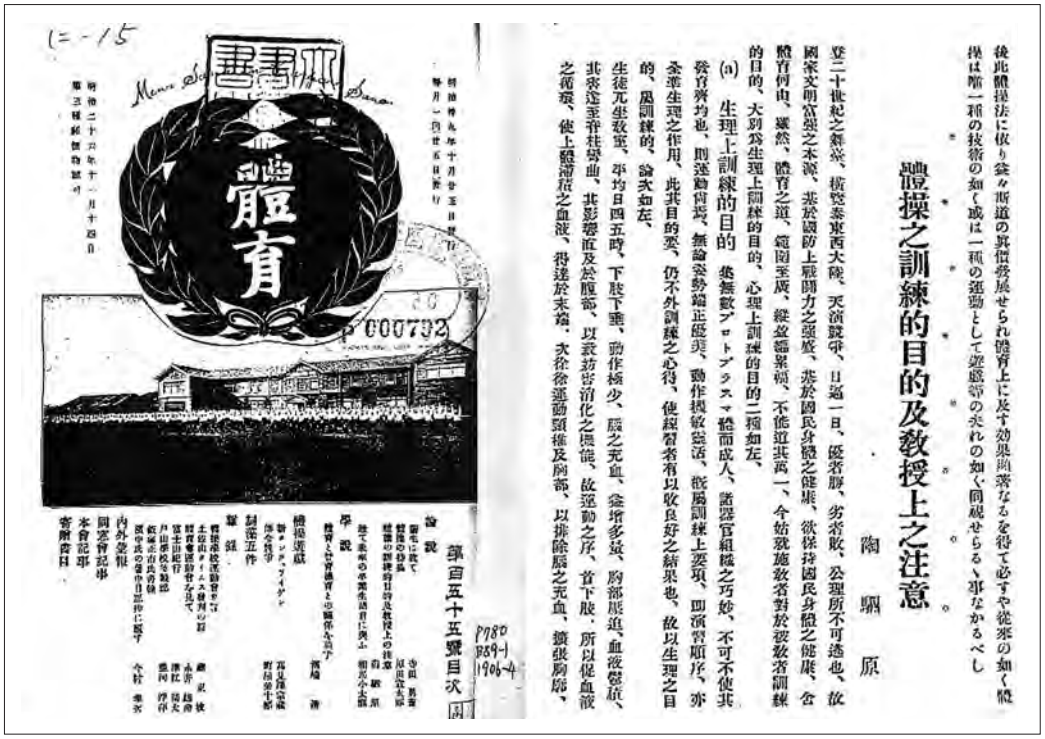

図２『體育』と「體操之訓練的目的及教授上之注意」

図２は陶駟原の「體操之訓練的目的及教授上之注意」である[16]。

6.3 西洋医学の導入と熊輔龍氏

「通師」から派遣された唯一の医学留学生である熊輔龍氏は1904年、「通師」師範本科第二期生として入学し、1905年「通師」から日本に派遣され、最初は清華補習学校[17]で日本語を勉強し、1906年千葉医学専門学校（現・千葉大学医学部）に入学した。

1909年から、学術雑誌である『医薬学報』に６本の研究論文を発表した。1911年９月、卒業して帰国した彼は、清国政府の遊学卒業生考選[18]を受け、優秀な成績が認められ、「医学挙人」[19]という称号を授与された。

1911年末に辛亥革命が起こると、張謇氏はすぐ南通軍政を立ち上げ、熊輔龍氏を軍医として任命した。1912年、張謇氏は南通医学専門学校（南通大学医学部と蘇州大学医学部の前身）を創設し、熊輔龍氏がその主任に就任した。同年３月、「通師」の校医を兼任した。1913年、南通医院（現・南通大学医学部附属病院）の主任に就任した。

16）『體育』第155号、日本体育会、1906年、pp.14-16。
17）東京都小石川区にあった実業補習学校、運営者は范源濂と梁任公である。この学校の資金は、当時の清国在日本使館から提供された。
18）1908年公布された『游学毕业生廷试录用章程』により、海外の高等教育機関で学位を取得した者は、帰国後、学部の審査・承認を経て、成績に応じて科挙試験の功名を授与することができる。
19）医学留学生は、帰国後、学部の審査・承認を経て、成績に応じて「医学挙人」と「医学進士」という称号を授与する。

1912年、南通で最初の乳癌切除術を行っている。1915年、南通で初めて人体解剖の示範教育を実施した。同年４月、戒煙丸を開発し、2,000人以上のアヘンを戒めることを支援した。

熊輔龍氏は清朝末期から中華民国初期まで、張謇氏が与えた任務を十分に果たし、南通の医療事業の近代化に貢献した。張謇氏も「通人之知西医，盖自此始」（南通の人たちは、熊輔龍氏が南通病院の院長をしていた頃から、西洋医学が分かるようになったのだ）、と高く評価している[20)]。

7. 終わりに

本稿では清末期における通州師範学校の日本留学生の実態を調査し、留学生の派遣の原因と張謇氏の人材育成の理念をめぐって考察した。

(1) 日本留学生の派遣の要因について、中国初の民間資本による独立運営の「通師」は、設立当初から政令や資金不足で深刻な教師不足に悩まされた。この問題は、日本人教師や日本の高等教育機関を卒業した中国人を教習として雇うという違法行為によって一時的に緩和され、南通で日本の教育制度や教科書などが徐々に導入され始めたが、特に張謇氏の地方自治と教育改革が進むにつれて、日本語の堪能な中国人人材、高度な知識を備える南通の現地人材の需要が急速に高まってきた。これらの問題を解決するために、「通師」側は３回に分けて学生や教習を日本に派遣したと見られる。

１回目、派遣された学生らは全員、公費で１年間の速成教育機関に留学した。２回目「通師」の留学生派遣は、教員補充の目的だけでなく、教員の専門性を高めることが求められていたからである。また、張謇氏の地方自治事業における医療開発のニーズに応えるため、西欧の医療技術を学んでもらう目的で医学生も派遣した。３回目の２人は、すでに教習として働いていたため、学校経営や教育行政を学ぶことが主な目的であった。それゆえ、長期留学ができる留学生向けの教育機関を選択したと見られる。

総じて、３回にわたる日本への留学生派遣は、「通師」の発展や張謇氏の教育改革の展開に応えるものであると筆者は主張する。

(2) 張謇氏の人材育成、当時、日本で行われていた中国人留学生に対する速成教育は、しばしば批判されていた。張謇氏と「通師」側は、速成教育を選択したことは資金不足と教師不足という二重の圧力でやむを得ない選択だと考えられる。張謇氏には、これらの学生に帰国後、教習だけでなく管理者の重任も任せており、教育改革事業のリーダーとして育成する狙いがあると考えていたと筆者は見ている。その結果からみれば、これらの留学生の多くは張謇氏の期待に応え、教育現場だけでなく、張謇氏の教育改革と地

20）張謇「致符鼎升函（1921年）」『張謇全集』、第３巻、上海辞書出版社、2012年、p.850。この手紙の中で張謇は、当時の江蘇省教育庁長であった符鼎升に、熊輔龍を江蘇省立医科専門学校の校長に推薦していた。

方自治事業に大きな貢献をしている。

(3)「通師」のような中国最初の師範系の私立学校は、公立学校と比較して、資金不足に常に悩まされていたが、「通師」は近代中国において、多くの公立学校よりもはるかに優れた師範教育のモデルとして注目されていた。これに関しては他の論文に譲る。

参考文献

日本語

1. 阿部洋『中国の近代教育と明治日本』、龍溪書舎、2002年
2. 蔭山雅博「宏文学院における中国人留学生教育―― 清末期留日教育の一端――」、『日本の教育史学』23、1980年、pp.58-79
3. 邵艶・船寄俊雄「清朝末期における留日師範生の教育実態に関する研究―― 宏文学院と東京高等師範学校を中心に――」、『神戸大学発達科学部研究紀要』10、2003年、pp.383-398
4. 孫倩「清末留日学生の教育機関――早稲田大学と法政大学を中心に――」、早稲田大学『社会研論集』20、2012年、pp.169-184
5. 劉佳「張謇の南通における近代教育普及への貢献――日本モデルの教育制度の受容を中心に――」、東京学芸大学博士論文、2019年

中国語

1. 郭秉文『中国教育制度沿革史』、福建教育出版社、2007年
2.『南通師範校友会雑誌』第1－6期、南通師範学校校友会、1911－1916年
3. 如皋市教育局、『如皋県教育誌』、如皋県教育誌編集委員会、1987年
4. 王建明・宋方・孫模『南通県教育誌』、新華出版社、2001年
5. 章開沅『張謇伝』、浙江古籍出版社、2021年
6. 張之洞『奏定学堂章程・学務綱要』、1904年
7. 周新国・張慎欣編『張謇辞典』、広陵書社、2021年
8. 朱嘉耀『南通師范学校史 第一卷 記事』、南京師範大学出版社、2012年
9. 朱有瓛『中国近代学制史料』、華東師範大学出版社、1989年

中国語における「人で終わる使役を表す形容詞」の用い方の特徴の考察

“感人”の歴史的変遷及びその日本語訳の特徴を考えて

尚 煜琛

要 旨

“惊人”“吓人”“宜人”のような、中国語における「“人”で終わる使役を表す形容詞」は、中国語特有の表現であり、用法も多いため、日本人中国語学習者には難解である。本論文では例文調査や文献調査を通して、中国語でよく使われる“感人”の歴史的変遷に焦点を当てて考察した。

例文調査や文献調査の結果、①“感人”の辞書における日本語訳では、「感動的」「感動する」とされているものが多いが、筆者は「感動的」「感動する」だけでは不充分であると考えている。「evocative」という意も強く、「素晴らしい」「人を魅了する」「人々を感心させる」などの日本語訳も可能である。これは古代中国語の例文調査からも裏付けられる。②“感人”の最初の意味は、「感化する」に近い意味で、儒家とのかかわりが多いと見られる。《礼记・乐记》と《荀子・乐论》にも見られる。③晋代から、“感人”は形容詞化の傾向を示していた。④古代中国語では、“感人”は現代中国語には見られない「書学（書法）の素晴らしさ」「女性の美しい」を褒め称えるという用法があり、それは「素晴らしい」「人を魅了する」という意味を表し、“动人”に近い用法である。⑤ネット用語として使われている“感人”は、主として「あるものに対して文句を言う」、「悪口を言って相手を中傷する」といった２つの意味を持つ。

はじめに

『白水社　中国語辞典』[1)]、『小学館　中日辞典 第３版』[2)]、Weblio中国語例文[3)]の例文を対象に、“感人”の日本語訳に関して調査を行った。その結果を下記の表１にまとめた。

表１ 中国語の“感人”の日本語訳一覧

“感人”の日本語訳	
感動的	12
感動させる	3
感動させられる	2
感動する	1
感動を与える	1
心を打つ	1

1）白水社（2002）『白水社　中国語辞典』白水社
2）北京商務印書館・小学館（2016）『中日辞典』（第３版）小学館
3）https://cjjc.weblio.jp/sentence/（検索日：2022.8.8）

表１から、“感人”の日本語訳として「感動的」「感動する」がよく使われることが分かった。

「新中国70年70部長編小説典藏」[4]を対象に、現代中国語における“感人”の用法を調査した。その用い方の特徴は以下のようにまとめられる。

①【“感人的”＋名詞】の形で使われ、辞書では「感動的」「感動する」と訳しているが、場合によっては意訳が必要である。

１．这是一段感人的故事。／これは一くだりの感動的な物語である。『白水社 中国語辞典』

２．说到“重吃一番交杯喜酒”的时候，便满面带笑，斜着眼睛望着心中暗喜的杨军，真是具有一种感人的魅力。／横目で「床盃、もう一回飲もう」と言いながら笑顔いっぱいで楊軍を見て、そんな彼には人を魅了するような魅力が溢れているように見える。《红日》

例２は、中国の長編小説《红日》に出てきた、片足をなくした負傷兵「梅福如」が素晴らしい演技で現場を盛り上げるシーンの描写である。この場合の“感人”を日本語にどのように訳すのかについて、筆者は“感人”は英語の「evocative」に近い意味を表すため、「感動的」や「感動する」のように訳すと違う意味になってしまうと考える。例２の“感人的魅力”は、「素晴らしい魅力」「人を魅了するような魅力」「人々を感心させる魅力」がふさわしいと言える。

②“感人肺腑/感人心胸”の形で使われ、「人の心を打つ」という意味を表す。

「新中国70年70部長編小説典藏」を調査した結果、“感人肺腑”のような“感人”を含んだ例文は32例あり、そのうちの７例は“感人肺腑”であった。“感人至深”も３例、“感人心胸”も１例あった。下記の例がそれである。

３．他用哽咽的音调喃喃地念完了作者在最后所说的那些沉痛而感人肺腑的话……这时，天已经微微地亮出了白色。／彼は喉を詰まらせながら、著者が文末で書いた重たくて人の心を打つような言葉をぶつぶつと読んでいた……その時、空はもう白み始めた。《平凡的世界》

４．一片呼声，加上哭声，声声感人心胸。／呼び声と鳴き声が交じり合い、人々の心を打つような響きであった。《李自成》

4）「新中国70年70部長編小説典藏」http://www.chinawriter.com.cn/n1/2019/0923/c403994-31368489.html で見られる。《我们播种爱情》《苦菜花》《上海的早晨》《创业史》《艳阳天》《大刀记》《万山红遍》《蹉跎岁月》《九月寓言》《日出东方》《水乳大地》《我是我的神》《焦裕禄》《装台》の計 14作は、考察価値がやや低く、日本では入手困難等が原因で、ここでは考察対象に入れなかった。

《平凡的世界》と《李自成》の例を見ると、“感人”は四字熟語として用いられることが多い。古代中国語では四字熟語の代わりに“感人心”はよく使われていたが[5]、「人の心を打つ」という意味を表す現代中国語の“感人肺腑”や“感人心胸”とは違い、古代中国語の“感人心”は「感化する・影響を与える」という意味を表すこともある。

次に“感人”の用い方について春秋時代からの用法調査の結果を説明する。

1．春秋時代の“感人”の用い方

春秋末期の《易传・彖传・咸》では“感”と“人心”（人の心、つまり人の精神世界）が組み合わせて用いられていた。下記の例がそれである[6]。

5．天地感而万物化生，圣人感人心而天下和平。/天と地が交感すれば万物が生まれ育つ。聖人のまごころが万民を感化することにより、天下平和になる。《易传・彖传・咸》

《易传》に用いられる“感人心”の“感”は一字動詞で、“人心”（民の心、その精神世界）はその対象である。字面から見ると、前文で提示した用法②（現代中国語の“感人肺腑”のような人の「心を打つ」意味を表す表現）と類似するが、実は意味が異なる。“感人心”は「人々を感化する」の意味を表す。「人の心を打つ」意味を表す“感人肺腑”とは違い、《易传》に用いられる“感人心”は儒家の教化思想（人に儒家の思想を教え、よい影響を与えて善に導くこと）を表す。前者は「瞬間・短い時間の感動」で、後者は「長い間の教化」である。

“感人心”は、「感化する・影響を与える」という意味を表す。戦国時代の儒学者の思想を含む《礼记・乐记》と《荀子・乐论》で見られる“感人”の由来だと考えられる。

2．戦国時代の“感人”の用い方

戦国時代の“感人”の用例は主として《礼记・乐记》と《荀子・乐论》に見られる。

6．夫物之感人无穷，而人之好恶无节，则是物至而人化物也。／外物は常に止むことなく人に影響を与える。人は好き嫌いを控えずすべて受け入れると、ものに征服され、人としての天性を失い本能の欲に従うものになってしまう。《礼记・

5）徐甜（2018）〈表达致使义的双音节“X＋人”研究〉华东师范大学硕士论文
6）“天地感而万物化生，圣人感人心而天下和平”は、孔子が書いた「易経 - 彖伝 - 咸卦」への注解からとったもので、「彖伝への注解」を含む《十翼》に収録されている。《十翼》は後世になって《易传》の一部とされた。故に本論文はその出自を《易传・彖传・咸》であると表記している。

乐记》

7．乐也者，圣人之所乐也，而可以善民心，其感人深，其移风易俗，故先王著其教焉。／聖人は楽を好む。其れは人々の心を優しくさせ、深く人を感化させられ、よくない風俗習慣を改められる。故に先王たちは、楽の教えを重んじる。《荀子・乐论》

8．凡奸声感人，而逆气应之；逆气成象，而淫乐兴焉。正声感人，而顺气应之；顺气成象，而和乐兴焉。／悪い楽が人に影響を与えたら、人に潜む悪気がそれに応じる。悪い風習が流行ったら、人々の心を惑わせ秩序を乱れてしまうような音楽も流行っていく。良い楽が人に影響を与えたら、人に潜む正気がそれに応じる。正気が広まっていけば、穏やかな音楽が広く流行っていく。《礼记・乐记》

《礼记》と《荀子》の例を見ると、春秋時期と戦国時期の“感人”は人から人に「感化する・影響を与える」という意味を表し、主語が人に影響を与えることにより、人の心（精神世界）が影響されるという意味を表す。

《礼记》と《荀子》で使われている“感人”は「感化する・影響を与える」という意味を表し、「長い間の影響」により生じた結果を表す。上記の三つの文は、それぞれ「外物の人への影響」「楽の人への影響」「悪い楽や良い楽の人への影響」を表す例である。これらの例は《说苑》《史记》《汉书》などにも多く引用されている。そのため、古代中国語の“感人”が広く使われていた理由は、《易传》《礼记》《荀子》による影響が大きいからと言える。

以上のことから、春秋戦国時代において、“感人”は儒家が楽に対する思想を表す文に多く使われていたという特徴が窺える。

3. 漢代と南北朝時代の“感人”の用い方

漢代は《礼记》《荀子》の“感人”を含んだ文を引用したものが多い。下記の例がそれである。

9．感人善心。／人を感化してその心を優しくさせられる。《风俗通义・声音・琴》

例９のような表現もあるが、その意味は《易传》《礼记》《荀子》の“感人心”“感人”と同じであると考えられる。

10. 歌哭，众人之所能为也，一发声，入人耳，感人心，情之至者也。／歌うと泣く。そういう二つのことは誰でも出来るが声を出し人の耳に響かせ、他人を感動させるのは、感情がなかったならばできぬものだ。《淮南子・缪称训》

11. 丝桐感人情，为我发悲音。／琴は我の気持ちを読み取っているように、悲しい郷の音を出してくれる。《七哀诗》

前漢の《淮南子》に見られる“感人心”は、字面からは《易传・彖传・咸》の“感人心”と同じように見えるが、（長く続く）影響や感化を表す意味ではなく、使役の動作を表す「XXが人を感動させる」の意味で使われているものである。“感人”が「感動する」という意味に変化するという傾向が示されていることが分かる。《淮南子》の“感人心”は、前文で提示した用法②（現代中国語の“感人肺腑”のような「人の心を打つ」意味を表す表現）に類似する表現だと考えられる。

《七哀诗》の“感人情”は「人の気持ちが読み取れる」という意味を表し、“感”（感知する）＋“人情”（人の気持ち）の用法であり、現代中国語の“感人肺腑”などの表現との関連性はない。

後漢・許慎の《说文解字》における“感”の解釈も“感人”が「感動させる」の使役的意味へ変化していく傾向を示すものである。《说文解字》による“感”の解釈は下記の通りである。

- 感：动人心也（“感”とは、人の心を動かすという意味である）。《説文解字・第十下・心部》

この解釈から、“感人”と“动人”との強い繋がりも見られる。現代中国語において、“感人”と“动人”の使い分けがはっきりしないのは、《说文解字》の解釈、若しくは当時の“感人”と“动人”に対する理解が近いからだと考えられる。

漢代以後の三国時代では、宋代の《太平御览》に収録されている孫権の話と、曹丕による《列异传》にも“感人”という表現が出てくる。

12. 此神女也，愁貌尚能感人，况在欢乐！／仙女のような美しい女だ！哀愁を帯びた表情だけで人を魅了する、ましてや笑顔は言うまでもない。《太平御览》

例12で用いられている“感人”の用法も古代中国語の“动人”に近い。古代中国語の“动人”は、「美しい女性を褒め称える」際によく使われていた。例12で示したように、古代中国語でも“感人”は人を魅了するという意味を表すことがあり、そこからも当時の“感人”と“动人”に対する理解が近いということが裏付けられる。また、現代中国語“感人”の用法①で提示した“感人”の日本語訳として考えられる「素晴らしい」「人を魅了する」の意味も、“动人”に近いことが窺える。

4. 晋代と唐代の“感人”の用い方

西晋の《三国志》《裴希声侍中嵇侯碑》と東晋の《怀春赋》《秋夜》《怀归谣》《断酒戒》にも“感人”が使われている。そのうち、《断酒戒》は《礼记》の“物之感人无穷”を引用したものと見られる。

西晋の《三国志》《裴希声侍中嵇侯碑》には、“感人神”の用法が見られる。

13. 惠风横被，化感人神，遂凭天威，招合遗散。／その恩恵は風の如く地元を吹き、人と神を感動させる教化の功があり、遂に天子の名望をかりて流民を集めた。《三国志・吴书十六・陆凯传》
14. 忠诚感人神，义声震四海。／神明まで感動させるその忠義は、天下に広く知られている。《裴希声侍中嵇侯碑》

《三国志》と《裴希声侍中嵇侯碑》で使われている“人神”は「人と神」の意味である。“感人神”の“感”は「感動させる」の意味であり、“人神”と組み合わせれば「人と神を感動させる」という意味を表す。字面から見ると「人の精神」と誤解してしまう恐れがあるが、“感人心”や“感人情”のような「（人の）心や精神世界」（人が有するもの）を表すのではなく、人とそれ以外のものが並列関係にあることを表す。また“感人神”は「神明まで感動させる」（人はともかく、神すら感動される）という意味もあり、程度の強さを表す。

《怀春赋》《秋夜》《怀归谣》の“感人”には「しみじみと」の意味も含まれ、元と明の時代の戯曲によく使われていた“伤感人”に近い用法である。「しみじみと」の意味を表す“感人”には、物が人の精神世界を変える働きを表す形容詞へと変化する傾向が見られる。下記の例がそれである。

15. 夫荣雕之感人，犹色象之在镜。／草木の栄えと散らしは、鏡に映る万物の形貌の変化にも似て、しみじみとさせる。《怀春赋》

唐の時代において、“感人”は古文や唐詩によく使われていた。

清代康熙四十四年（1705年）に出版された唐の主な古代詩をまとめた《全唐诗》を調査した結果、“感人”を用いる唐詩が18首あった。

古文においては、主に《群书治要》《通典》において“感人”の用例が見られる。その14例は下記の二つの用法に分けることができる。

①「感化する」の意味を表す。作者が《礼记》を引用し、音楽が人に与える影響を説明する文に用いられる。下記の例がそれである。

16. 夫音声能感人，自然之道也。／音が人を感化させるのは、自然である。《通典・

乐三・历代制造》

②《三国志》に出る用法に近く、動詞“感”＋“人情”や“人神”で、「感動させる」の意味を表す。

17. 臣闻作乐崇德，以感人神。／臣は、楽を作ることで帝王の功を歌い上げ、人と神も感動させることができると聞いたことがある。《通典・乐七・东宫宴会奏金石轩悬及女乐等议》

唐代の古文全体から見ると、“感人”の用例数が多く、唐以前の各時代の特徴が窺えた。

唐の古文とは異なり、唐詩では、文中における位置は文中から文末へ転移する現象が見られる。

文末に置かれるのが“感人X”（Xは“心”“情”“深”“意”などの成分）ではなく、“感人”だけである唐詩は下記の二作である。

18. 温和乍扇物，煦妪偏感人。／天候がよいで扇を使うにちょうどよく、周りが暖かくて最も人を気持ちよくさせる。《全唐诗・卷三百四十七・赋得春风扇微和》
19. 古称浮磬出泗滨，立辨致死声感人。／泗浜の石で作られた磬があって、君子がその心に響くような声を聞いて、節操と義行を知り、国の為に犠牲になることをもいとわない覚悟ができたこともあったという。《全唐诗・卷四百二十六・华原磬一刺乐工非其人也》

唐代以前の例とは異なり、《华原磬一刺乐工非其人也》の“感人”は音楽を修飾し、形容詞の特徴を持つものである。

文末に“心”“情”“深”“意”などの語が“感人”の後につく表現も多い。《全唐诗》に出てきた18例のうち、“感人深”は２例、“感人情”は４例、“感人心”は３例、“感人意”は１例あった。いずれも「深く人を感動させる」「感動的」の意味を持ち、形容詞化の傾向を示していたが、「感化する」（闻君政化甚圣明，欲感人心致太平。《骠国乐一欲王化之先迩后远也》）を表す例もあった。

5. 宋元時代の“感人”の用い方

宋に至ると、「注疏の学」が盛んに行われたため、当時の儒家学者が孔子及びその後学の論述を引用し、自身による論述を加えることが多かった。中でも《礼记》の楽に関する論述が多く引用されたため、“感人”を含む文も多くなった。「注疏の学」の流行により

この時期に“感人”を含む文が多く見られるようになったと考えられる。

20. 其仁德感人如此。／その仁徳はかくも人を感動させる。《太平御览・居处部十九・市》

宋代新儒家の代表的人物である朱熹とその弟子の論述をまとめた《朱子语类》でも“感人”が多く用いられていた。これも「注疏の学」からの影響だと考えられる。

また宋代には、“感人”を用いて書学（書法）の素晴らしさを褒める用法も見られる。

21. 慈恩寺塔有荆叔所题一绝句，字极小而端劲，最为感人。／慈恩寺塔には荆叔が書いた絶句があって、その字は小さくて力が感じられる。とても味があって、人々を感心させる。《容斋随笔・容斋五笔・卷七》

現代中国語“感人”の用法①で提示した日本語訳として考えられる「人々を感心させる」の意味と近い1例である。

“感人”の用例が多い唐詩とは異なり、清代の朱祖謀が編集した《宋词三百首》を考察した結果、宋詞では“感人”が使われていないことが分かった。

元に至ると、雑劇と散曲が流行るようになり、雑劇では“感人”は使われていないが、“伤感人”が頻繁に使われるようになった。元の代表的な雑劇14編と《全元散曲》に収録されている散曲4,303編を調査した結果、“感人”と関係があるのは“感人怀”の一例だけであることが分かった。これらのことから、散曲でも“感人”がほとんど使われないと考えられる。

6. 明代の“感人”の用い方

明代の代表的な雑劇10編を調査した結果、“感人”は用例がなく、「悲しい」を表す“伤”を加えた人物の感情を強調する“伤感人”は10編のうち７編で見られ、例文は10例あった。

22. 娘子，你看一路上风景，好生伤感人也呵！／お嫁さん、来た道の風景を見ていたか、その風景はなんと悲しいものであろう。《拜月亭》

明代の詩をまとめた《明诗综》では、“感人心”が１例、“感人意”が２例、“感人情”が２例、“感人”が１例、“孝感人”が２例あった。

明代は白話小説が数多く作られたが、白話小説で使われる“感人”は少なく、それらは主として明代末の作品に見られる用例である。31部の白話小説及び小説集の中で、重複した例を除くと４例あり、そのうち１例は詩であり、白話小説ではない。“闲向书斋阅

古今，偶逢奇事感人心”がそれである。

23. 我闻诗可感人，我今做一首诗与你，你到帅府首唱此词，韩公英雄气魄，必然感动。／詩は人々を感心させることができると聞いてる。今書いてやる。将軍のところへ行って、その詞を歌ってみよう、韓公は英雄の器があって、それを聞いて必ずや感動されるであろう。《西湖二集・今古奇观》

これは現代中国語“感人”の用法①で提示した日本語訳として考えられる「人々を感心させる」の意味と近い一例である。

明とその以前の詞（韻文文体）をまとめた《词综》と《明词综》では、“感人”は使われていない。

7.“感人”と“动人”の比較

「３．漢代と南北朝時代の“感人”の用い方」でも指摘したが、“感人”と混同されやすい表現として“动人”がある。“感人”と“动人”の違いについて比較を行った。小学館『中日辞典 第３版』、Weblio中国語例文における“动人”の例は51例あり、出現頻度が二回を超えたのは下記の六つになる。

表２ “动人”の日本語訳一覧

“动人”の日本語訳（頻度順上位六位）	
感動的	12
心を打つ	7
感動させる	6
感動させられる	3
心を動かす	2
キュート	2

表２で示したように、“动人”の日本語訳として「感動的」「心を打つ」「感動させる」が最も多く用いられる。

現代中国語“动人”の日本語訳として出現頻度の最も高い表現は「感動的」で、「感動する」よりも使用頻度が高い。“感人”と異なるのは、「心を打つ」や「心を動かす」もよく用いられる点である。褒め称える際に用いられる“动人”は「キュート」、「美しい」、「魅力的」、「素晴らしい」、「立派」のような意味を表す場合もある。

本論文で取り上げた「新中国70年70部長編小説典藏」56部の長編小説の中で、“动人”の用例は256例もあり、“感人”（同じ56部の長編小説の調査では32例だけあった）と比べると、使用頻度が明らかに高いのが一つの特徴であると言える。

“感人”との共通点としては、“动人”も二字漢語と組み合わせて使われる場合が多い点が挙げられる。251例のうち、“动人”が二字漢語と組み合わせて使われたものは87例あり、二回以上使われた“楚楚动人”が20例、“动人心魄”が11例、“动人心弦”が７例、“美妙动人”が５例、“美丽动人”が５例、“妩媚动人”が４例であった。

24. 在柔和幽静的灯光里，妻子还是显得那样年轻俏丽、楚楚动人。／柔らかで静かな明かりの中で、妻は相変わらず若くて美しく、楚々として人の心を打つ。《抉择》
25. 是小提琴协奏曲《梁祝》那动人心弦的旋律吗？／これはバイオリン協奏曲「梁祝」の心に迫るメロディーでしょうか?《穆斯林的葬礼》

《抉择》と《穆斯林的葬礼》の例を見ると、最も出現頻度の高い“楚楚动人”、“动人心魄”、“动人心弦”は、固定的な表現として使われている傾向が見られる。

漢代では、“动人”が多く使われるようになり、西漢の《史记》《大戴礼记》《列女传》《新语》《新书》《说苑》に頻繁にも出てくるようになった。また“动人”は歌の曲のすばらしさを形容する文にもよく見られる。

26. 靡乐九奏万舞，不类三代之乐，其声动人心。／美しい曲が繰り返し奏でられるのを聞き、万舞の舞も見た。夏、商、周の音には似ず、心に触れる音楽でした。《论衡・纪妖》

《论衡・纪妖》で用いられる“动人”は“感人”とは完全に異なる。

「お金や言葉を使ってある行動を取るように仕向ける」という意味も《新书・卷四・匈奴》に見られた。

27. 赏均则国窳，而赏薄不足以动人。／報酬は全員均等に配れば国庫が貧しくなり、報酬が少なければ、人を動かす／人を駆り立てることができない。《新书・卷四・匈奴》

《新书・卷四・匈奴》で用いられる“动人”の意味は、「人を動かす/人を駆り立てる」に近い。一方で、“感人”には「人を駆り立てる」という意味を表す用法はない。

漢代となると、“感人”は多くの場合「楽」のような外物が人に与える影響を説明する際に用いられるようになった。それに比べ、“动人”は「言葉」や「お金」などが人を駆り立てる効果を説明する際に用いられていることが多い。

例文調査の結果、漢代とそれ以前において「音楽が人の精神に与える影響」という意味を表す“感人”は19例（引用も含まれる）中15例もあり、“动人”は27例（引用も含まれる）

中７例であった。両者を比べると、“感人”の目的語はほぼ「楽」に限られ、“动人”のほうがそれよりも目的語の種類が多く、「顔」の美しさを褒め称える際に用いられる“容貌动人”（《汉书・传・杨雄传下》）、「言葉」で相手の考えを揺らがせることを表す“动人以言”（《大戴礼记・文王官人》）などの用法がある。

古代中国語における“感人”と“动人”の意味を、下記の表のようにまとめた。

表３　古代中国語の“感人”“动人”の意味及び日本語訳

古代中国語の“感人”	古代中国語の“动人”
感化人・影响人（感化する・影響する）	使人动摇（動揺させる・駆り立てる）
（女性的容貌等）有魅力（美しい・素晴らしい・人を魅了する） （共通的な用法）	
使人感到舒适（人を）気持ちよくさせる	X
使人感动（人を感動させる・しみじみと・人々を感心させる）	使人感动（人を感動させる・人の心を打つ）
感动人心的（心に響くような・感動的な・人の心を打つような） （共通的な用法）	

上記の表を見ると、古代中国語における“感人”と“动人”の違いが分かる。

8. ネット用語としての“感人”

近年、“感人”はネット用語としても使われ、新しい意味が生まれた。ネット用語としての“感人”は、形容詞としてあるものに対して不平や不満を言う時に使われる。「（～は・が）XXすぎる」という意味を表すほか、悪口を言って相手を中傷する時に使われ、「（～は～が）XXい」という意味を表す（ネット用語）。

以下の例文はネット用語として使われる“感人”の例である。

28. 这视频画质感人。／この動画の解像度は低すぎる。
29. 打捞大黄蜂，掉落率感人。大建北宅，出货率感人。／ホーネットをサルベージしようとしたら、ドロップ率が低すぎる。連続建造でティルピッツを入手しようとしたら、出現率が低すぎる。
30. 楼主智商感人。／（スレ主は）頭がおかしい。
31. 这游戏的装备强化成功率感人。／このゲームの装備強化成功率が低すぎる。

ネット用語としての“感人”は、主として下記のように二種類の用い方に分けられる。

① あるものに対して文句を言う。物価が高い、値段が高い、画像の解像度が低い、ゲームの装備強化の成功率が低いなどの状況に対し、不満を表す際に使われ、

日本語に訳せば「XXすぎる」になる。

② 悪口を言って相手を中傷する。“水平感人”（水準が低い）、“智商感人”（頭が悪い、頭がおかしい）などの用法があり、日本語に訳せば「低い」「悪い」「おかしい」など貶しめの形容詞になる。

おわりに

本論文は中国語における「“人”で終わる使役を表す形容詞」の用い方及びその日本語訳の特徴について、とりわけ“感人”のような表現を研究対象とし、例文調査を通してこれらの表現の用い方の特徴について考察したものである。また、語源とさらにその歴史的変遷に関しても考察した。

以下は調査の結果である。

①“感人”は「感動的」「感動する」と訳すことができるが、中国語の“感人”は、日本語の「感動的」「感動する」よりも広い意味を持つ。「evocative」という意も強く、「素晴らしい」「人を魅了する」「人々を感心させる」などの日本語訳も考えられる。

②“感人”の本来の意味は「感化する」に近いものであり、儒家とのかかわりが強い。《礼记・乐记》と《荀子・乐论》にも見られる。儒家の教化思想（人に儒家の思想を教え、よい影響を与えて善に導くこと）を表す。

③晋代から、“感人”は形容詞化の傾向を示していた。西晋の《三国志》《裴希声侍中嵇侯碑》には、“感人神”の用法が見られる。字面から「人の精神」と誤解してしまう恐れがあるが、“感人心”や“感人情”のような「（人の）心や精神世界」（人が有するもの）を表すのではなく、人と他のものが並列関係にあることを表す。また“感人神”は「神明まで感動させる」（人はともかく、神すら感動される）意味もあり、程度の強さを表す。

④古代中国語では、“感人”は現代中国語には見られない「書学（書法）の素晴らしさ」「女性の美しい」を褒め称えるという用法があり、それは「素晴らしい」「人を魅了する」という意味を表し、“动人”に近い用法である。

⑤ネット用語として使われている“感人”は、主として「あるものに対して文句を言う」「悪口を言って相手を中傷する」、といった２つの意味で使われている。

参考文献

李映忠（2015）〈汉语“V + 人”式综述〉《陇东学院学报》第 26卷 第 6 期 pp.12-16 陇东学院

宋慈（2013）〈论“单音节动词性成分+人”式形容词的词汇化〉《文学教育（中）》第 2期 pp.96-96 湖北大学

中国語の“把”構文の特徴の研究にかかわる諸問題の考察

中国語学習者にいかに指導するかを考えて

李 政澤

要 旨

本稿は、中国語の“把”構文の使用条件、使用場面、使用制限、使用できない制限、文法的な特徴について考察したものである。“把”構文を伴う反語文、使役文、受身文、仮定文、条件文を中心に分析した。“把”構文の使用には、話者の意図する意味が強調されるという役割が窺える。相手に注意依頼する場合、失敗、残念な気持ちを表す場合、相手を責める場合、あるものを異なるものに変える場合など、いずれも“把”構文を用いて表現することができる。例文調査の結果、“把”構文は①あるものを違う場所へ移動させることを表す場合、必ず“把”構文を使わなければならず、他の文には置き換えられない。②比喩的な修辞手法を用いて、ある物を何かに見なし、物事をどのように思うかということを表し、強い主観性をもっている構文と見られる。「～を～とみなす」を表す場合は“把” 構文でないと表現できない。③情報伝達を強調する場合は“把” 構文でなければならない。④自然界の物事で、人間の意識で制御することができない場合、“把”構文は使用できない。

はじめに

他の国の言語体系では、“把”構文と文法構造、表現方法と類似する構文はほとんど見られないため、現代中国語において極めて特徴的な構文と言える。ここ百年にわたり、“把”構文の研究は長らく中国語学界の人気課題となっている。“把”構文における「主観化」から人間の態度、感情、認知などが読み取れる。

“把”構文の文法的機能は、動作対象の状態変化を強調する機能であると見られる。中国語には、動作主の変化を表すのか動作対象の変化を表すのかというカテゴリーがあり、このようなカテゴリーは日本語には見られない。中国語学習者（日本人）に、いかに中国語の“把”構文を習得させるかが課題となっている。

“把”構文の研究に取り組んでいる研究者は多いが、課題は依然として多数残っている。筆者はその中で、未解決の問題に目をつけ、以下のような課題を研究課題とする。

(1) どのような状況だと“把”構文が使えないのか。中国人はどのような場合に、“把”構文をよく使うのか、或いは使わないと文として成り立たないのかについて調査する。

(2) 中国語学習者（日本人）に、どのように分かりやすく“把”構文の特徴を理解させるのか。

（3）“把”構文の使用条件は何か。“把”構文が使用できない制限条件は何か。

本論文では“把”構文の実際の使用状況や例文調査、インタビューによる調査を通し、言語の静的研究よりも、生活の中で生きている言語に対する動態的研究に力点を置き、“把”構文の研究にかかわる諸問題について考察することとする。

1．中国語学習者（日本人）の誤用例からみた“把”構文の使用条件

次に中国語学習者（日本人）が“把”構文を学習する際に間違いを起こしやすい場合の文法的誤りによる原因、及び“把”構文をどのように正しく使うかを考察する。

1.1 中国語学習者（日本人）の“把”構文の誤用

中国語学習者（日本人）には下記のような“把”構文の誤用がよく見られる。

例１　日本の冬、よく火事が起こる。なぜなら、人々が吸ったタバコを草の中に捨てたからである。
×在日本的冬天，经常遇到火灾，原因是人们扔抽完的烟到草丛里面。
○在日本的冬天，经常遇到火灾，原因是人们把抽完的烟扔到草丛里面。

例文１は、「ポイ捨ての煙草の火」が人間のミスにより、火災を招いた結果、他者に影響を及ぼすことを表す。中国語では、あるものを違う場所へ移動させることを表す場合、必ず“把”構文を使わなければならず、他の文には置き換えられない。ここでは、タバコが草むらに移動することを表すため、“把”構文を使わなければならない。

例２　喫煙といえば、よく健康を損なう問題と結びついている。
×说到“吸烟”，常常会和损害健康问题联系在一起。
○说到“吸烟”，常常会把它和损害健康问题联系在一起。

例文２の「×」をつけている文は“把”が欠けているだけでなく、“把”の後に続く“它”という目的語も欠けている。“把”と“它”を補うと、正しい文となる。喫煙が健康を損なう必然的なつながりがあるため、“把＋它”が欠けていると、非文になる。“把它”は“吸烟这个问题”を指す役割を果たしているため、省略できない。

例３　王さんは賭博で貧乏になった。
×小王把赌博变成了穷光蛋。
○赌博把小王变成了穷光蛋。

例文３は文脈の前後関係が乱れているため、誤り文となる。「賭博」は「王さん」が貧乏になった「原因」であり、その原因の「賭博」は“把”構文の前半に位置しなければならない。

例４　だから親は子供を「王様」と見なすべきではない。
×所以父母不应该看成孩子们小皇帝。
○所以父母不应该把孩子们看成小皇帝。

例文４は比喩的な修辞手法を用い、子供を小皇帝に喩える例である。実際、「子供」と「王様」は大切な存在であるという点で類似し、ある物を何かに見なし、物事をどのように思うかということを表す強い主観性をもつ構文である。「～を～とみなす」を表す場合は“把”構文でないと表現できない。下記の例もそれである。

例５　我把他当作亲人一样看待。（彼を身内のように扱う）
例６　要把高考当作战争一样去看待。（大学入試を戦争と見なして扱わなければならない）
例７　我们应该把友谊当作是一份值得我们珍惜和养育的礼物。（私たちは友情を大切なプレゼントと見なすべきである）
例８　父母把孩子看作自己生命的延续。（親は子供を自分の命の延長と見なしている）
例９　守财奴把金钱看作生命。（守銭奴は金を命と見なしている）

例文５、６、７、８に示した“把～当作～”“把～看作～”のような構文を“把”構文において「認定文」と呼ぶこととする。“把～当作～”“把～看作～”のような「認定」を意味する動詞の場合、目的語は動詞の後に位置することはできない。“把”構文を使うと文の意味をより明確に表現することが可能となる。
下記の例を考える。

例10　学生たちは先生の教えを心に銘じる。
×学生们铭记老师的教导于心。
○学生们把老师的教导铭记于心。

例10のポイントは、学生たちが先生の教えを心に銘じることである。張伯江（2000）は人々が情報移動過程を表現する際に、空間上の物体移動過程を移植して用いる、情報を実物と見なし、交際過程を伝達過程と見なすと指摘している[1)]。それゆえ、情報伝達を強調する場合も、あるものを違う場所へ移動させるのと同様に“把”構文を使わなければ

1）本論文における日本語の辞書的解釈は、別項説明がない限り、三省堂『大辞林』第三版を引用したものである。

ならない。

以上、中国語学習者（日本人）の誤用例の視点からみた“把”構文の使用条件である。

1.1.2 “全部”と“一些”を表す日本語を“把”構文に翻訳する際に生じる誤り

“全部”と“一些”の両方を表す日本語の場合、具体的な状況に基づいて分析する必要があり、どんな場合でも“把”構文を使うことはできるとは限らない。下記の例がそれである。

例11　彼はお茶を飲んだが、しかし、飲みきれなかった。

○他喝了茶了，但是没喝完。
×他把茶喝了，但是没喝完。

“他喝了茶了”は、彼がお茶を飲むという動作を表すだけで、実際にお茶を飲み終えたか否かははっきりしない。“他把茶喝了”を使うと、すでにお茶をすべて飲み干しているという明確な結果が出ていると考えられる。それゆえ“但是没喝完”を後接すると、話が矛盾するため、誤用とされる。

下記の例を考える。

例12　彼は果物を全部食べてしまった。
○他把水果全都吃完了。
×他全都吃完了水果。
例13　彼はゴミを全部片付けた。
○他把垃圾全都收拾干净了。
×他全都收拾干净了垃圾。
例14　彼は難題を全部解決した。
○他把难题全都解决了。
×他全都解决了难题。

例文12、13、14の日本語訳はいずれも“全部”を用い、中国語の例も“全都”を用いている。“了”は「時間点」の標識として、動作を完了した状態を表す。上記の場合は、“把”構文を使わなければならない。“把”構文を用いる場合、通常、〈“把”＋全都／全部〉の形で表現する。何かをすべて解決した、すべて食べたことを表す場合、“把”構文でないと表現できない。上記の「×」を付けた誤り文は“全都/全部”をつけても文としては成り立たない。

ただし、通常の“全都／全部”を伴う動詞文でも“把”構文を用いずに成り立つものもある。また“全都／全部”を伴う動詞文すべてが“把”構文でないと表現できないというわけでもない。中国語の“他们全都去了”（彼らは全員行った）の構文は成り立つ。なぜならば、

中国語の一部の動詞“懂”“是”、とりわけ移動を表す動詞は“把”構文には用いられないからである。

例15　彼はそのことをすっかり忘れてしまった。
〇他把那件事全部忘记了。
〇他全部忘记了那件事。

例文15のように、“把那件事忘掉”と“全部忘记了那件事”は同じ意味を表す場合があり、非意図的、忘れてはいけないことを忘れてしまったことを表し、後悔の念を持つ。しかし、“你快把那件事全部忘掉!”（早くそのことを忘れなさい）になれば、主観性を表すことができる。
下記の例を考える。

例16　彼は苦汁をなめた。
〇他吃了一些苦头。
×他把一些苦头吃了。
例17　彼は重度なる苦難を嘗め尽くした。
〇他经历了一些磨难。
×他把一些磨难经历了。

例文16、17のように、“一些”は数量と程度を表し、１％から99％までの間を表しているが、100％には達していないという意味を表す。「苦難」「苦しみ」というマイナス表現を表す場合、“把”構文は使用できない、と筆者は考えている。

1.2 日本語の自動詞と他動詞が中国語の“把”構文の形に訳される際に起こる誤り

日本語の動詞は自動詞と他動詞に分けられているが、中国語には自動詞と他動詞の分け方がないため、中国語学習者は翻訳する際に間違いを起こしやすい。

1.2.1 日本語の他動詞文と中国語訳（“把”構文の場合）の考察

次に日本語の他動詞文の中国語訳（“把”構文の場合）の例を考える。

例18　ご飯を食べた。　〇我把饭吃完了。
例19　水を飲んだ。　〇我把水喝完了。
例20　本を読んだ。　〇我把书读完了。
例21　声を高めた。　〇我把声音提高了。
例22　水をかけて火を消した。〇用水把火熄灭了。

他動詞の場合、“把”構文の形で訳すことができる。“饭吃完了”“水喝完了”“书读完了”“声音提高了”“火熄灭了”は主語の意図的な行為によって望みの結果が得られた。話し手の意志で何かの行動を起こすことは“把”構文でなければ表現できない。

1.2.2 日本語の自動詞文と中国語訳(“把”構文の場合)の考察

例23　雨が降る。
×把雨下了。　　○下雨了。
例24　風が吹く。
×把风起了。　　○起风了。
例25　稲光がはしる。
×把闪电打了。　○打闪电了。
例26　まだ雪が消えない／溶けない。
×还没把雪化了。○雪还没化。

例文23、24、25、26のような自動詞の場合は、“把”構文の形で訳すことはできない。“下雨了”“起风了”“雪还没化”“打闪电了”は自然界の物事であり、人間の意識で制御することができない場合は、“把”構文は使用できないのである。

上記の他動詞文と自動詞文の中国語訳からみると、他動詞は、話者の意志で制御することができるため“把”構文の形で訳すことができる。逆に、自動詞は、話者の意志で制御することができないから、“把”構文の形で訳すことはできない。中国語には自動詞と他動詞の分け方がないため、日本人の中国語学習者は翻訳の際に間違いを起こしやすい。

1.3 中国語“把”構文の使用条件と制限条件

次に中国語“把”構文の使用条件と制限条件について述べる。“把”構文の構成は“把”の前の部分と“把”の後の部分に分けられる。“把”構文の特徴は、物事に対しての結果、或いは何かをやり終え、完成した状態を表す。“把”構文は語彙構造にも一定の制限条件がつく。

1.3.1 “把”構文の使用条件の考察

“把”構文について、金立鑫(1997)は文の強制的な目的語は前倒ししなければならないが、しかし、文脈の前後関係について目的語は文の先頭に立つことができないので、目的語は主語の後にしかない[2)]と指摘している。これらの要因によって、必ず“把”構文の使用が制限される。下記の例がそれである。

2)本論文における中国語の辞書的解釈は、別項説明がない限り、商务印书馆《现代汉语词典》1997年修订本を引用したものである。

例27　王さんは本を買って、本棚に本を置いた。
○小王买了一本书，他把这本书放在书架上了。
×小王买了一本书，他放这本书书架上了。

例文27のように、“×他放在这本书书架上”とは言えない、文法上、目的語は前置しなければならない。また目的語は文頭に置くことができないため、“把”構文を使わなければならない。

なにかを移動させる場合に用いられる“把”構文の特徴は何か、次に、あるものを違う場所へ移動させることを表す場合の例を考える。

例28　把用过的剪刀放回原处。（使ったハサミは元のところに戻す）
例29　把资料搬到会议室。（資料を会議室に運んだ）

例文28、29のように、移動を表す動詞を用いてAのものをBの場所に移動させる場合、中国語では、“把”構文でなければ表現できない。“把”構文の際立った特徴の一つである。抽象的な場合にも“把”構文が使われる。下記の例がそれである。

例30　他把全部精力都投放到自己的研究上去了。（彼はすべてのエネルギーを自分の研究に注ぎ込んだ）
例31　他把视线转移到国外市场上。（彼は海外市場に目を向けた）

例文30、31のように、Aのもの（抽象的なもの）をBの場所に移動させる場合も、“把”構文でなければ表現できない。

1.3.2 “把”構文が使えない制限条件の考察

次に劉培玉の《现代汉语把字句的多角度探究》[3]で提示した“把”構文が使えない制限条件について検証する。

例32　彼は水を持っている。
×他把一瓶水有。　　○他有一瓶水。
例33　彼は李さんだ。
×他把李先生是。　　○他是李先生。

3）劉培玉（2013）は、「如果一个语义结构式不具备“作用性，结果性和完成性”的特点，就不能使用把字句表达である」（p.81）と定義される。

例文32、33のように、“有” “是”のような所有動詞、判断動詞は“把”構文が使用できない。下記の例を考える。

例34　彼は台所にいる。
×他把厨房在。　　○他在厨房。
例35　彼は鏡を置いた。
×他把镜子放。　　○他放镜子。
例36　彼は果物を持っている。
×他把水果拿。　　○他拿水果。

例文34、35、36の“在” “放” “拿”は“把”構文の文末で使用できない。“放” “拿”などの動詞の後に動作によって何らかの結果を表す「結果性」が現れていないため、“把”構文が使用できない。ただし、使用場面を変え、結果性を付け加えれば“他在厨房把饭做好了”（彼は台所でご飯を作った）、“他把镜子放下去开门了”（彼は鏡を置いてドアを開けた）、“他把水果拿来吃了”（彼は果物を持ってきて食べた）のように“把”構文も使用できる。

下記の例を考える。

例37　我把你见了五次。（あなたに５回会ったことがあった）
例38　我把你找了五次。（あなたを５回捜した）
例39　我把商场去了五次。（デパートに５回行った）

例文37、38、39 “见”、“找”、“去”などの動詞もこの場合には用いられない。回数を用いるため、“把”構文に用いられないというわけではない。“我把这本书看了五遍”（この本を５回読んだ）のように“看”という動詞なら“把”構文に用いられる。移動動詞の“去”と同じく、“见”という動詞も“把”構文には用いられない。“找”という動詞は“你把那本书找一找”（あの本を探してください）、“我把大街小巷找遍了，没找着”（私は大通りも路地も探したが、見つからなかった）のように、特定の条件（補語をつける場合、重ね語の形で用いられる場合）を満たせば、“把”構文に用いられる場合もある。

2. “把”を伴う構文にかかわる諸問題の考察

2.1 反語文における“把”構文の特徴

中国語では“没有”と“不”を否定の意味で使うことが多い。“没有”と“不”を伴う否定形式を伴う“把”構文は、普通の疑問文として使われる場合があり、また反語文として使われる場合もある。下記の例がそれである。

例40　她没把东西给你吗？（彼女はあなたにものをくれなかったのか？）
例41　没把玻璃擦干净吗？（ガラスをきれいに拭かなかったのか？）
例42　没把作业写完吗？（宿題を書き上げていないのか？）

例文40、41、42の“没”は強勢の音で発音し、文末の語調がさがる場合、その文は普通の疑問文ではなく、反語文となり、驚き、強い疑問、非難の気持ちを表す。

2.2 中国語“把”構文を伴う使役文・受身文の特徴

中国語の“把”構文は使役を表すことができる。下記の例を考える。

例43　他吃中餐把自己吃胖了。（彼は中華料理を食べたせいで太ってきた）
例44　他唱歌把嗓子唱哑了。（彼はよく歌を歌ったのでのどがかれた）
例45　他赌博把钱都输光了。（彼は賭博でお金を全部失った）

例文43、44、45とも、ある種の行為によってその結果悪い状態になったことを表す。因果関係を表すが、多くは思う通りにいかなかったことを表す。
“把”構文は命令の語気も表すことができる。下記の例がそれである。

例46　把狗放在外面。（犬を外へ出せ）
例47　把精神提起来啊。（しっかりしろ）
例48　去把门关严。（きちんと戸締まりをしろ）

例文46、47、48には命令の意味がある。AさんがBさんに、あることを強制したりすることを表し、主観性や語気が強い。“把…完成”、“把…做好”は日本語の「させる」と同じ意味であり、物事を完成させる状態を強調する。目上の人が目下の人に、上司が部下に対して使われる場合が多い。

2.3 “把”構文を伴う仮定文（条件文）の特徴

“把”構文を伴う仮定文（条件文）とは、通常、“假设”、“假定”、“假如”という表現を前置しこのような仮定のもとで発生した結果や問題と想定することを表すものである。

例49　把心用在学习上，没有学不好的。（一心不乱に勉強すれば、身に付けられないものはない。）
例50　把工作全部做完，才能休息。（仕事を全部やってこそ、やっと休みが取れる。）

このような仮定文は“把”構文によく見られる。“只要～就～”の意味を表し、主観的な意が強い。

例51　把科技搞上去，才能有新的设计，新的产品。（科学技術を向上させてこそ、新しい設計、新しい製品が得られる。）
例52　把身体调整到最佳状态，才能青春永驻。（体を最適な状態に調整してこそ、いつまでも永遠の若さを保つことができる。）

例文51、52のように、このタイプの条件文は、一定の条件を満たすと目標が達成できることを表す。条件を仮定して、目標を達成するためには、この条件を満たさなければならない。しかも、この条件はこの一つしかない。

3. 日常生活で用いられる“把”構文の使用場面

3.1 相手に何かを依頼する場合、勧める場合、注意する場合に用いられる“把”構文

例53　别把纸乱扔。　（紙をみだりに捨てるな）
例54　别把他带去。　（彼を連れて行くな）
例55　把门打开。　（ドアを開けて）
例56　把钱点一下。　（お金をちょっと数えて）
例57　别把他看扁了。（彼をみくびってはいけない。）
例58　把伞带去。　（傘を持って行って）

“别乱扔纸”、“别带他去”のように、一部の例は“把”構文でなくても表現できるが、“把”構文を用いると、目的語が動詞の前に移動されるため、強調することになる。

又、筆者は“把门打开”、“把钱点一下”、“把伞带去”のように、文の前に“把”を付けると、文がより婉曲になり、“把”を使わないと、命令の口調となると見ている。

3.2 失敗、残念の気持ちを表す場合

例59　把帽子弄丢了。（帽子をなくした）
例60　把差事丢了。　（仕事をなくした）

例文59、60で分かるように、話者本人の過失、不注意により悪い結果を招いてしまったことを表し、予想外のこと、話者本人の失敗、残念という気持ちが表される。

3.3 相手を責める場合、あるものを異なるものに変える場合

中国語の“把”構文は人を責める場合にもよく用いられる。その場合の“把”構文の特徴は何か、下記の例をもって説明する。

例61　怎么把钱弄丢了？　　（どうしてお金を失くしましたか？）
例62　怎么把那份文件丢了？　　（どうしてその書類を紛失しましたか？）

例文61、62のように、“把”構文は人を責める場合にもよく用いられる。“了”はすでに起こったことを表す。“丢”にはマイナス評価の意味が感じられ、“怎么把＋丢了”は日本語の「どうして～を失ったのか」にあたる。この場合は、“把”構文を使わなければならない。

“把”構文は変化を表すこともでき、一つのものを別のものに変えることを表す。下記の例がそれである。

例63　把日语小说译成中文。　　（日本語の小説を中国語に翻訳する）
例64　把水冻成冰。　　（水を凍らせて氷にする）
例65　把昔日的小城镇变成了繁华的大都会。（昔の小さな町を賑やかな大都会に変えました）
例66　把破烂不堪的民房变成了高楼大厦。　（ぼろぼろの民家を高層ビルに建て直した）

例文63、64、65、66のように、あるものを別のものに変えて質的変化が起こったことを表す場合、“把”構文がよく用いられる。人間の意図的な行為を表し、プラス評価の結果を表現することが多い。

3.4 離合、切断、結合、集合などを表す場合

中国語の“把”構文は離合、切断、結合、集合などを表す場合によく用いられる。下記の例がそれである。

例67　把两者分开。　（両者を分ける）
例68　用谎言，把一对情侣拆散了。　（嘘で、カップルを引き裂いた）
例69　因为受到新冠病毒的影响，把他们夫妻二人分隔两地。　（新型コロナウイルスの影響で、夫婦が離れて住んでいる）

例文67、68、69のように、“把＋分开、拆散、分隔”などの動詞は「人が集まってことと、別れて仲間が無くなること」を表す。共にいるべき人や物事が、外部の力の影響を受け

て離れ離れ、別々となった場合は、“把”構文でなければ表現できない。

“把”構文は「切断」という意味を表すことができる。下記の例がそれである。

例70　把苹果切开一人一半。　（りんごを１人半半に切る）
例71　把电源切断。　（電源を切ってください）
例72　把那根电线剪断。　（その電線を切断する）

例文70、71、72のように、“把＋切开、切断”などの動詞は日本語「断ち切ること」と同じ意味を表す。本来、つながっていた物体が、人々の意図的な行為によって離れたことを指す。AをBとCの二つの物体に分けたことを表す場合は、“把”構文でなければ表現できない。

おわりに

本稿は、中国語の“把”構文の特徴の研究にかかわる諸問題をめぐって、とりわけ中国語の“把”構文の用い方及び日本語訳の特徴に関して、例文調査、中国語学習者（日本人）の誤用例の分析を通して、文法論、語用論の研究視点から“把”構文の使用条件、使用場面、使用できない制限、文法的な特徴について考察した。

⑴ 日本語において、自動詞を使う場合、“把”構文の形で中国語に訳すことはできない。自然界の物事で、人間の意識で制御することができない場合は、“把”構文は使用できない。他動詞を使う際は、話者の意志で制御することができるため、“把”構文の形で訳すことができる。中国語には自動詞と他動詞の分け方がないため、日本人の中国語学習者は翻訳の際に間違いを起こしやすい。中国語“把”構文の使用条件と制限条件について考察した。“把资料搬到会议室”のように、移動を表す動詞を用いてAのものをBの場所に移動させる場合は、“把”構文でなければ表現できない。×我把商场去了五次。（デパートに５回行った。）は回数を用いるため、“把”構文の形で用いられない。ただし、回数を用いる構文はすべが、“把”構文の形で用いられないというわけではない。“我把这本书看了五遍”のように“看”という動詞ならば、“把”構文に用いられる。動詞と大きく関係している。移動動詞の“去”、“见”という動詞も“把”構文に用いられない。“找”という動詞は“你把那本书找一找”“我把大街小巷找遍了，没找着”のように、特定の条件（補語をつける場合、重ね語の形で用いられる場合）を満たせば、“把”構文に用いられる場合もある。

⑵ 中国語では“没有”と“不”を否定の意味で使うことが多い。“没有”と“不”を伴う否定形式を伴う“把”構文は、普通の疑問文として使われる場合があり、また反語文として

使われる場合もある。

- 没把作业写完吗？（まだ宿題を書き上げていないのか？）

この場合の“没”は強勢の音で発音し、文末の語調がさがる場合、その文は普通の疑問文ではなく、反語文となる。反語文を使う場合、驚き、強い疑問、非難の気持ちを表す。

- 把身体调整到最佳状态，才能青春永驻。（体を最適な状態に調整してこそ、いつまでも永遠の若さを保つことができる。）

このタイプの条件文は、一定の条件を満たすと目標が達成できることを表す。条件を仮定して、目標を達成するためには、この条件を満たさなければならない。しかも、この条件はこの一つしかない。

(3) 相手に注意、依頼する場合、“把”構文を使う際には、何かをしてほしいという表現がより柔らかく感じられる。“把”構文は失敗、残念の気持ちを表す場合、話者本人の過失、不注意により悪い結果を招いてしまったことを表し、予想外のこと、話者本人の失敗、残念という気持ちが表される。また“把”構文は離合、切断、結合、集合などを表す。両者を結びつけたり切り離したりする場合は、“把”構文でなければ表現できない。使役文に近い“把”構文とも言える。

参考文献

(1) 彭飛 (2004)『中国語虎の巻―― 実力アップ15の秘伝』東方書店
(2) 刘培玉 (2009)《现代汉语把字句的多角度探究》华中师范大学出版社
(3) 张伯江 (2013)《说把字句》学林出版社

日本語と中国語の形容詞の特徴に関わる諸問題の考察

金 東昊

要　旨

日本語形容詞は意味の幅が広いのに対して、中国語形容詞は数的に多い、といった両言語の形容詞の特徴が窺える。中国語形容詞の日本語訳は動詞となる場合がある。本稿では両言語の形容詞特有の特徴を九つにまとめた。更に日本語形容詞接尾辞「サ」「ミ」の違いとその中国語訳の特徴について、アンケートを通して日本語ネィティブの使用傾向を調査した。「―みのある」の形はよく使用されるが「―さのある」の使用例は見られないことのほか、「あたたかみ」は人間的な温もりを表すことが多いなど、幾つかの使用傾向を挙げた。

1. はじめに

日中対照研究においては名詞や動詞の研究が蓄積されているが、形容詞に関する研究はまだ脆弱である。特に同じ漢字を使う日本語形容詞と中国語形容詞の違いに関する研究がほとんどない。

「おもしろさ」と「おもしろみ」のような日本語形容詞の接尾辞「さ」と「み」の使い分けは中国人学習者を悩ませる。それに対応する中国語は、名詞だけでなく、形容詞と対応する場合もある。

本稿では日本語と中国語の形容詞の特徴の研究にかかわる諸問題について考察し、とりわけ中国語と日本語における形容詞の用い方の特徴、形容詞接尾辞「サ」と「ミ」の違い、漢語形容詞の用い方及びその中国語訳の特徴について、コーパスで調査した実用例の分析及び日本語ネイティブを対象とするアンケート調査を通して考察する。

2. 中国語と日本語における形容詞の用い方の特徴

2.1　中国語の形容詞と日本語の形容詞や動詞

中国語の形容詞文を訳す場合、対応する日本語は形容詞ではなく、動詞である場合も少なくない。下記の例がそれである。

“清彻的天空”　　「澄み切った空」
“纵横交错的街道”　「交差する街並み」
“胖”　　「太る」

“瘦”　　「痩せる」
“老”　　「老いる、年をとる」

このように、中国語の形容詞の日本語訳の例を調査した結果、日本語では、形容詞ではなく動詞となることが多いという特徴が浮き彫りになった。上記の例のように人間について使われる“胖”“瘦”は、日本語では「太る」「痩せる」という動詞になる。“年轻”の場合、日本語の形容詞「若い」に対応するが、その反対語となる“老”の場合は、日本語の動詞「老いる」や「年をとる」に対応する。

もう一つ注目すべき点は「太る」「痩せる」「年をとる」を用いる場合、「太っている」「痩せている」「年をとっている」という「テイル」の形で表現することが多い点である。この特徴を見過ごしてはいけない。これは形容詞的用法と関係があると考えられる。

中国語の形容詞を日本語に訳す場合に、日本語では動詞で対応する例をもう少し取り上げる。

“对”⇔“错”　　「正しい」⇔「間違える」
　　「正しい」⇔「誤り、誤る」

中国語の“对”と“错”はいずれも形容詞であるが、日本語に訳すとそれぞれ「正しい」、「間違える／間違う／違う」となるが「間違える／間違う」を意味する日本語形容詞はない。また、「間違えている」「間違っている」の「テイル」の形で使用されることが多い。

“我很紧张”　　×「私は緊張です」
　　○「私は緊張している」
“两者不一致”　×「両者は一致ではない」
　　○「両者は一致していない」

この現象は和語に限らず、日本語と中国語における漢字同形語にも見られる。中国人日本語学習者が間違いやすいところでもある。

中国語の形容詞は非常に豊富であり、日本語より数的に多いという特徴が見受けられる。一方、形容詞は名詞を修飾する場合、活用してほかの品詞となる場合もある。

2.2 感情形容詞の人称制限の特徴

中国語の“今天很高兴”を日本語に訳すと、「今日は楽しい」や「今日は嬉しい」のようになることから、中国語の“高兴”は「楽しい」「嬉しい」の両方を表すことが分かる。“今天玩得很高兴”の場合、通常「楽しい」を用いるのに対して、“听到这消息很高兴”の場合、

通常「嬉しい」を用いる。ここから中国語の“高兴”の意味の幅が日本語よりも広いことが窺える。

日本語の場合、「嬉しい」は外から得た情報について喜ばしく思うことを表し、自発的な感情で愉快だと思うことを表す場合は「楽しい」を用いるという違いがある。「楽しい」と「嬉しい」は“高兴”以外に“开心”や“愉快”などで対応することもある。

主観的な感覚・感情を表す形容詞は感情形容詞と呼ぶ[1)]。感情形容詞には人称の制限があるという特徴が見られる。以下はその例である。

「私はうれしい」 “我很高兴”
△「彼はうれしい」 “他很高兴”

“我很高兴”は「私は楽しい」となり、“他很高兴”の場合には、「彼は楽しい」ではなく「彼は喜ぶ」となる。日本語の感情形容詞は主観性が強く、話し手自身の感情を表現できるが、第三人称の場合、「～がる」「～そうだ・～ようだ・みたい」など接尾語、助動詞を付けること、また「喜ぶ」のように動詞を用いることにより表現が客体化される。この点は中国語の形容詞には見られない特徴であり、中国人学習者が日本語を習得する際に苦労するところでもある。

2.3 日本語形容詞「～ク」の修飾について

日本語の形容詞の多くは「～ク＋動詞」の形で副詞として動詞を修飾することができる。これに対して、中国語の形容詞は動詞を修飾できる形容詞と、修飾できない形容詞の二つに大別できる。筆者は前者を“A類形容詞”、後者を“B類形容詞”と名付け、さらに、動詞を修飾でき、補語としても用いられる形容詞を“C類形容詞”と呼ぶこととする。この分類からも中国語の形容詞特有とも言うべき大きな特徴が浮き彫りになる。

難しく考える ⇒“想得太复杂”
きれいに洗う ⇒“洗得干净”

中国語の“复杂”“干净”のような形容詞は動詞を直接修飾できない。これは、ある状態の結果を表す形容詞の場合、形容詞は動詞を修飾することができないからである。このような形容詞をここでは“B類形容詞”と名付ける。

補語構文は外国人中国語学習者のみならず、中国語母語話者でさえ理解しにくいものである。“A類形容詞”“B類形容詞”“C類形容詞”は中国語の“的・地・得”の習得にも大きくかかわる。結構助詞“的・地・得”は全て“de”と発音するため、中国語母語話者であっ

1）『國語学辞典』の「形容詞」の項を参照。

ても、特に若い世代はこの〈結構助詞〉を間違えて使用することが多い。

〇做得好　　△做的好　　×做地好[2)]

構造的に言えば、中国語の形容詞“好”は連体修飾語として動詞のみを修飾することができる。したがって、“做的好”は間違いであり、正しくは“做得好”である。

次に以下の例を考える。

(1) 特别是早晚高峰期，交通问题更是显得突出。”
(2) 不是因为对手太强，而是我队踢得太差。”

例 (1) と例 (2) の“好” “突出” “差”はいずれも中国語の“B類形容詞”に属し、いずれも〈結構助詞〉の“得”を介して補語として用いられる。以下三つの例は中国人日本語学習者の使用例である。

(3) 他日语说得很好。
△ 彼は日本語をよく言う。
(4) 他歌唱得很好。
△ 彼は歌をよく歌う。
(5) 他文章写得很好。
△ 彼は文章をよく書く。

日本語の形容詞連用形「～ク」は中国語の副詞「得～」の表現と対応することが多いため、上記例 (3) (4) (5) のような不自然な使い方をしてしまう中国人日本語学習者が多い。

2.4 「的」を伴う漢語形容詞の用い方の特徴

「特徴的」「徹底的」「国民的」「主観的」のような「的」を伴う漢語を、ここでは「〈的〉を伴う漢語形容詞」と名付けることとする。これらの語彙の特徴は、「的」を後接しなければ単なる名詞となり、「的」を後接すれば形容詞となる。日本語の形容詞を定義する場合、このような「〈的〉を伴う漢語形容詞」を含まない場合が多い。筆者は、これは日本語の形容詞の特徴の一つであると認識しており、外国人向けの日本語教育においても大きな意義を持つと考えている。

中国語の“的”と日本語の「的」は同じであると考える中国人日本語学習者が多いが、それによる誤用も多く見られる。

2)「〇」は正確な使い方、「△」は容認度が低いもの、「×」間違った使い方と意味する。

“安定的生活”　×「安定的な生活」
　　○「安定した生活」、「安定な生活」
“充实的生活”　×「充実的な生活」
　　○「充実した生活」、「充実な生活」

日本語の「安定」は「安定的な収入」「安定的な仕事」「安定的な運用」「安定的な投資」「安定的な経営」「安定的な供給」のように「安定的」という形でもよく使われるが、「安定的な生活」とは言わず、「安定した生活」と言う。これは中国人日本語学習者が間違えやすい典型的な例の一つである。日本語の「充実」は「充実的」の形としては用いられない。“充实的生活”は日本語で「充実した生活」と言う。

下記の例を考える。

“自发学习”　×自発的学習する→自発的に学習する
“积极参加”　×積極的参加する→積極的に参加する

上記のように、「自発的」「積極的」が述部で用いられる場合は「ニ」を伴う必要がある。日本語の「積極」は名詞で、中国語の“积极”は形容詞である。また、「積極的参加」が主部にある場合は、その前に必ず接語「の」「による」などを伴って用いられ、連体修飾の役割を果たす。

2.5 日本語形容詞と中国語形容詞の特有な特徴

日本語の形容詞の主たる特徴は次のようにまとめられる。

❶日本語の形容詞の種類が多い。

主体の性質・状態や感情・感覚を表す日本語の形容詞には、「難しい」「早い」「遅い」のような「イ」で終わる形容詞や形容動詞のような「ナ」で接続できる形容詞、更に「積極的」「徹底的」のような「的」を伴う漢語形容詞がある。いずれも形容詞であることを示すマーカーがある。

これに対して中国語の形容詞は際立った特徴がなく、語の前に“很”“不”をつけることができるか否かで判断することが基準となっている。

❷日本語の形容詞はテンスを表すことができる。「白い⇒白かった」「きれい⇒きれいだった」がその例である。一方、中国語の形容詞は過去を表すことができない。

❸日本語の一部の形容詞は形容詞→名詞（副詞）に派生することがある。

日本語の形容詞は活用により、あるいは語尾の派生により名詞（副詞）となる場合も

多い。形容詞の語基に付き、名詞となるものには「さ」「み」「け」「げ」「め」が挙げられる。以下の例がそれである。

形容詞→名詞（副詞）	多い→多く	速い→速く（副）
	遠い→遠く	古い→古く
形容詞→名詞	重い→重さ／重み	温かい→温かさ／温かみ
	暖かい→暖かさ／暖かみ	悲しい→悲しみ
	細い→細め	早い→早め
	淋しい→淋しげ	眠い→眠げ

❹日本語の一部の形容詞は形容詞→動詞に派生することがある。

形容詞派生動詞には「がる」「める」「まる」などがある。その他、同一の和語からなる形容詞と動詞のペアも多くある。

形容詞→動詞	怖い→怖がる	緩い→緩める	高い→高まる	

表１　形容詞と動詞のペア

形容詞	喜ばしい	悲しい	恥ずかしい	悔しい
動詞	喜ぶ	悲しむ	恥じる	悔やむ

表１のように、日本語動詞の中には、品詞は動詞であるが、意味的には形容詞に近いものがある、という特徴も見られる。動詞と形容詞の二つの品詞に共通する大きな特徴として、どちらも述語になり得るという構文機能がある。また、両品詞の意味的特徴については、動詞は主に行為や現象を表し、形容詞は状態や属性を表わす、という大きな違いがあり、これも中国語には見られない現象である。

❺日本語の形容詞は中国語の形容詞より意味の幅が広い語が多い。

日本語の形容詞の数は国語の形容詞より少ないが、意味の幅が広い語（多義的な形容詞）がかなり多い。そのため、日本語を中国語に訳す場合、一つの言葉だけでは対応することができず、文脈に応じて複数の異なる中国語形容詞を用いて対応する必要がある。

次に日本語形容詞の「甘い」の例を用いて説明する。

「甘い果物」　“甜的水果”
「ねじが甘い」　“螺丝松动”
「覚悟が甘い」　“决心不坚决”
「切れ味が甘い」　“刀不锋利”
「甘い言葉」　“甜言蜜语”

「甘い香り」　　“芬芳的香气”
「女に甘い」　　“溺爱女性”
「甘く見る」　　“想法很天真”

以上のように日本語の「甘い」を中国語に訳す場合、少なくとも八つの異なる表現がふさわしいことが分かる。

日本語の「甘い」の基本的な意味は中国語の“甜”にあたる。次に中国語の“甜”の例を考える。

(6) 这冰淇淋真甜。
　　このアイスクリームは本当に甘いね。
(7) 睡得真甜。
　　気持ちよさそうにぐっすり眠っている。
(8) 日子越来越甜。
　　日々良くなってくる。

“这冰淇淋真甜”の“甜”は「甘くて美味しい」ことを表すが、“睡得真甜”と“日子越来越甜”は「深く眠る様子」と「幸せである」ことを意味する。これらの例からも、日本語の「甘い」と中国語“甜”はそれぞれに特有の意味を持つが、日本語の意味の幅がより広いことが分かる。

❻変化を表す場合は「形容詞＋～クナル／ト（ニ）ナル」の形で表現する。

変化を表す場合は日本語では「形容詞＋クナル／ト（ニ）ナル」の形がよく使われ、前とは違った状態になることを表す。

(9) 私は賢くなった。
　　我变聪明了
(10) スピードが速くなった。
　　速度变得快了

しかし、感情を表す「形容詞＋クナル／ト（ニ）ナル」文は、中国語の“变”“变得”とは対応しない。以下の例を用いて説明する。

(11) この言葉を聞いたとき、代助は平岡が憎くなった。
　　代助听到这样的话，憎恨起了平冈。

(12) 渓流の釣りを思いながら、私はよく不快な記憶に腹立たしくなってくることがある。
我一想起在溪边钓鱼的事，就经常因为一些不愉快的回忆而感到恼怒。

上記の例のように、日本語の「形容詞＋～クナル／ト（ニ）ナル」と対応する中国語は“变得○○／变成○○”の構文だけではなく、気持ちや感情を表す“觉得○○／感到○○”、或は“○○起来”“○○了”で表すことが多い。

❼日本語の形容詞は独立性が高いという特徴も見られる。
日中両言語の形容詞は共に単独で述語として使用できる。しかし中国語の形容詞は単独で述語となるが、実際の運用では“很”“真”“不”などの修飾語を前に付けて使用する場合が多い。

“我很高兴”　「私は（非常に）嬉しく思う」
“我真郁闷”　「私は（非常に）憂鬱になった」

以上のように、述語となる中国語形容詞に比べ、日本語形容詞は独立性がより一層高い。日中両言語の形容詞は主体の性質・状態や感情・感覚を表すほかに、連体修飾語（中国語では“定语”と呼ぶ）として主語や目的語の前に置き、これらを修飾することもある。
中国語の形容詞の主たる特徴についてはすでに触れたが、ここでは更に二点について述べる。

❶“中国語形容詞＋的＋人”構文は、日本語の固有名詞と対応することが多い。
“不甘寂寞的人”　「寂しがり屋」
“努力的人”　「頑張り屋」
“愚蠢的人”　「愚か者」
“性急的人”　「慌てん坊」
“说话的人”　「話し手」

以上のように、日本語の連用形と「屋」「者」「手」「坊」などとの組み合わせから成る固有名詞と対応することが多いという特徴が窺える。

❷現代中国語で“○○之○”の形で用いられる。これは古代中国語の名残と見られる。
(13) 这次展览于11月27日开幕以来，以其规模之大、成果之丰、水平之高引起了首都各界人士的重视和关注。

この度の展覧会は11月27日の開幕以来、その規模の大きさ、成果の豊かさ、レベルの高さは世の中に注目されている。

例(13)から分かるように、中国語の“名詞＋之＋形容詞(一文字)”構文は、日本語形容詞の派生名詞「―さ」に対応する。

「修飾される名詞＋之＋形容詞」構文は古代中国語にも見られる。

(14)居庙堂之高，则忧其民；处江湖之远，则忧其君。

廟堂の高い所に居る(＝朝廷に仕官して高い地位に居る)ときは、民衆のことを心配し、江湖の遠い所に居る(＝仕官を辞めて民間の辺鄙な所に居る)ときは、君主のことを心配する。

(15)蚓无爪牙之利，筋骨之强――《勧学》
みみずには鋭い爪も強い筋肉もない。

以上のように、“〇〇之〇”構文は、現代中国語でもよく使用されているが、これは古代中国語の名残と見てよい。また、中国語は「名詞＋形容詞」の直後に句読点を施さず、結構助詞“的”または“得”と結び付け、何らかの名詞や動詞と接続することができる。現代中国語では「修飾される名詞＋之＋形容詞」構文を用いれば、修飾された名詞の長所を強調する効果がある。

3.「あたたかさ」と「あたたかみ」からみた形容詞接尾辞「さ」「み」の使い分け及び中国語訳の特徴

日本語では、「あたたかさ」や「あたたかみ」のように、形容詞語幹と接尾辞「－さ」「－み」を繋いで形容詞を名詞化することができる。このような名詞を「派生名詞」、或いは「転成名詞」[3)]と呼ぶ。「さ」と「み」について辞書の解釈はあまりにも曖昧であるため、中国人日本語学習者には分かりにくく、正しく使える学習者が少ない。一般的に「温」は「冷の対語」、「暖」は「寒の対語」と認識される。「温かみ」は「物理的な温度が丁度良い」こと、「暖かみ」は「体感的な温度が丁度良い」ことを表す。「暖かい」と「温かい」は、どちらも「アタタカイ」と読む異字同訓の語であるため、どちらも使用例として選考する。

3.1 動詞「感じる」と共起する「あたたかさ」と「あたたかみ」の異同

下記の例を考える。

3)西尾寅弥(1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』(国立国語研究所報告44) 秀英出版

(16) 彼は彼女の温かさを感じ、いい匂いを嗅ぎ、胸に顔を埋め、どぎまぎした。
他感受着她的体温，嗅着她身上的香气，把脸埋进胸里，十分狼狈的样子。
(17) タカヤの唇の温かさを感じてさえなお、それが現実なのだという実感がなかった。
尽管体会着高山嘴唇上的温暖，也完全没有一点真实的感觉。
(18) 彼女はホールデンの手の温かさを感じながら、無意識にしっかりとうなずいていた。
她一边感受霍尔顿手的温热，一边不自觉且坚定地点头。

上記の例(16)(17)(18)の「あたたかさ」は、唇や手など身体の一部に触れる時に感じる人間の体温を表している。以下は「あたたかみ」の例である。

(19) 僕は胸の上に有紀子の手のひらの温かみを感じながら、死について考えていた。
我胸口感受着有纪子掌心的温度的同时，思考着死亡。
(20) だが、注意ぶかく風をかげば、かすかな暖かみを感じることができる。
但是，如果十分注意地闻着风的味道，就能隐约感受到温暖。
(21) 手作りの温かみを感じるお料理と，楽しいおしゃべりで，とても素敵なひと時を過ごすことが出来た。
让人感到温暖的手工料理，和愉快地交谈，能够度过美好的短暂时光。

例(19)の「あたたかみ」が人間の体温を表すのに対して、例(20)は自然の風から与えられた感触、例(21)は手作り料理の熱い温度ではなく、手作り料理から感じられた相手の「あたたかい気持ち」を表す。

上記の例(16)～例(19)における「あたたかさ」と「あたたかみ」は、「熱くも寒くもなく気持ち良い」という意味を表している。この際、両者を置き換えても文としては意味が通じる。しかし、例(20)の「暖かみ」は体で直接に感じることができないため、「暖かさ」には置き換えられない。例(21)の「温かみ」は「愛情や思いやりがある様子」を表しているため、中国語“温馨”の意味に近い。したがって、「温かみ」を「温かさ」に変えると、この文の内容とは合わなくなる。

さらに、「感じる」の受身形「感じられる」との共起について、「あたたかさ」には共起する例が見られないが、「あたたかみ」は「温かみが感じられる」のように使われる。下記の例がそれである。

(22) 機械刺繍と比べると、立体感が違うし、何よりも温かみが感じられる。
比起机械刺绣的立体感不同，最重要的是能让人感受到温暖。
(23) 素材感が長く維持でき、温かみが感じられるのでキッチンや室内テラス、アプ

ローチなどに使われます。
长时间保持质感并且能让人感到温暖，所以经常被用在厨房、室内露台和走廊等。

(24) 図書館とはこうあるべきだというマニュアルに基づいて作られているのだろうが、温かみが感じられない。
本以为照着说明装修的图书馆就可以了，但却没有感到那种应有的温暖。

例(22)～(24)の「あたたかみ」は発話者の主観的な感覚を表すもので、個別化され、具体性に欠けた抽象的な表現である。例(20)と同じく、この表現は形容詞の語幹につく接尾辞「み」の特有な使い方だと見られる。

3.2 「あたたかみ」の特有な表現

3.2.1 中国語“暖色”に対応する「あたたかみ」

以下は「あたたかい色」という意味の「あたたかみ」の用例である。

(25) それが画面全体に柔らかさや暖かみを与えており、対照的にファルサーリの写真はどこか冷たく見えてしまうのである。
它赋予了画面整体柔软性和暖色感，相比之下法沙利的照片就显得有些冷。

(26) 例えば赤やオレンジと組み合わせれば、重苦しさをやわらげ、冷たい印象の青や白に加えれば、暖かみと心地よさをプラスしてくれます。
比如红色和橙色相组合，让沉重感变得柔和起来，加上代表冷淡印象的蓝和 白，就多了温暖和畅快的感觉。

(27) 水滴のついた風防の前方、あとからあとから繰り出されてくる海面の向こうでは、低い雲の下側が温かみのある黄色い光に照らされている。
海面的方向，低矮云层下侧映出让人感到温暖的黄色的光。反复映照在沾着水珠的风挡玻璃前。

上記の例(25)(26)(27)における「あたたかみ」はいずれも「その色が与えられる暖かい感じがする、という状態」を表すものである。このような場合は「暖かみ」を「暖かさ」に言い換えることはできない。要するに、暖色を示す場合は「あたたかみ」を用いて表現されることが多いと言える。

3.2.2 空間と関係する「あたたかみ」

(28) オリーブの葉をレリーフした壁面にモダンなソファを配した空間と、ブラウンを基調にした温かみのある空間が共存。
油橄榄叶作为浮雕的墙面配上现代沙发的空间和以棕色为主调的温暖空间共存。

(29) 工事では、耐震ブレース（筋交い）を施し、強度を高めるとともに、室内には木材を多く使用したため、温かみのある空間となりました。
此次施工采用了抗震支架，提升强度的同时，在室内也使用了很多木材，为这份空间营造出温暖的氛围。
(30) 診察を終えると、パンチャカルマ・アテンダントに案内されてトリートメント室に入りました。部屋は清潔で暖かみがあります。
会诊后，我被帕奇卡玛排毒疗法接待员带进了治疗室。房间干净温暖。

以上、「あたたかみ」は物理的現象でなく、その場における人間の感覚・感情が「思いやりのある・温もりのある」状態であることを表す表現である。

3.2.3「あたたかみ」の特有な表現「あたたかみのある」

「あたたかみ」を用いた例文を調査したところ、「あたたかみのある」の形がよく見られることが分かった。逆に、同じ名詞である「あたたかさ」は「のある」との接続は見られない。

筆者が例文を調査した結果、「あたたかみのある」の形は全使用例の約半分を占めていることが分かった。したがって、「あたたかみ」は「あたたかみのある」の形でよく用いられ、「〜のある」との共起性が強いことが考えられる。以下の二例も「あたたかみ」が「のある」と共起する例である。

(31) 人間が生きていくうえで大切なこと、必要なこと、恋愛、生と死など、時として重くなりがちなテーマをユーモラスで温かみのある写真と文章で綴っている。
幽默而温暖的照片和文字往往用来阐明沉重的主题，例如对人类生活，爱情，生死等等至关重要的重要的事物。
(32) 広がりのあるサウンドと緩やかなメロディとともに、彼女の温かみのある歌声がたおやかに響き、楽曲に込められた優しさや希望が伝わってくる。
宽阔的声音和缓慢的旋律一起，让她通过温暖治愈的歌声优美地回响，把投入音乐中的温柔和希望传递到这里。

「光」を伴う「暖かみのある」の例も多く見られる。以下の例 (33) がそれである。

(33) 夕暮れ時、恨みを抱いて立ちつくすような風情のススキは心寒いものだが、こうして昼下がり、暖かみのある秋の陽のもと、銀白色に輝く穂波を見るのは悪いものではない。
虽然夕阳西下时的芒草那心怀怨恨茫然伫立的样子让人寒毛直立，但在正午过后，

看着在秋日暖阳照耀下闪烁着银色光辉的麦浪的这份感觉也不错。

(34) 最近では、白熱灯のような暖かみのある光を放つ蛍光灯もありますから、冬場に使用してみてもよいと思います。
最近有了能像白炽灯一样发出暖光的日光灯，感觉在冬季使用起来也不错。

「あたたかさ」は太陽の熱による程よい熱さを表し、陽光の明るさや暖かみを表さない。「あたたかみ」の場合、「暖かみのある秋の陽」「暖かみのある光」のように中国語で“暖阳”“暖光”などのように訳す。下記の例(25)は太陽の熱による程よい熱さを表す「あたたかさ」の例である。

(35) やがて左右の壁が広く開き、太陽の暖かさにうなじをなでられて、わたしたちは外海に出た。
左右的墙壁大开，我们的后颈在被温暖阳光抚摸着，终于出发去了外海。

以上のように、「あたたかさ」と「あたたかみ」は「あたたかい」から派生した名詞である。中国語の“温暖”は名詞とはならないため、翻訳の際は注意が必要である。

「あたたかさ・あたたかみ」の意味と対応する中国語について、その温度が人間にとって気持ちの良いものであることを表す場合、“温和、暖和，温暖、舒适的温度”などを用いる。一方、愛情や思いやりがあることを表す場合、“热情、温暖、温馨”などを用いる。

3.3 「あたたかさ」と「あたたかみ」の使い分けに関するアンケート調査

「あたたかみ」と「あたたかさ」の使い分けに関して、京都外国語大学、京都先端科学大学の在学生56人を調査対象とし、アンケート調査を実施した。調査の結果は以下の表２の通りである。

表２　形容詞接尾辞「あたたかさ」と「あたたかみ」の使用傾向の調査結果

	あたたかさ	あたたかみ	両方とも	未回答	合計
問１	13(23.2%)	41(73.2%)	2(3.6%)	0	56
問２	48(85.7%)	6(10.7%)	2(3.6%)	0	56
問３	18(32.1%)	36(64.3%)	2(3.6%)	0	56
問４	19(33.9%)	35(62.5%)	2(3.6%)	0	56
問５	38(67.9%)	17(30.4%)	1(1.8%)	0	56
問６	6(10.7%)	48(85.7%)	2(3.6%)	0	56
問７	26(46.4%)	27(48.2%)	2(3.6%)	1	56
問８	12(21.4%)	43(76.8%)	1(1.8%)	0	56
問９	12(21.4%)	43(76.8%)	1(1.8%)	0	56
問10	3(5.4%)	51(91.1%)	2(3.6%)	0	56

問１. 飲食店というのは明かりがともっている、〈あたたかさ／あたたかみ〉を感じさせる場なのだと思います。

上記の例について、「あたたかさ」と、「あたたかみ」のいずれを用いるかについて調査したところ、「あたたかさ」と回答した人が13人（23.2％）であるのに対し、「あたたかみ」と回答した人は41人（73.2％）と高い割合を示している。灯っている明かりから、場の雰囲気や空間に帯びた「あたたかい、温もり」と理解し、「あたたかみ」を選択したと見られる。

問２. 非常にきびしい寒さの中に独り寂しくたたずんでいるかのような心が、太陽の〈あたたかさ／あたたかみ〉に包まれると、何かほっとしたような安心感が染みてきます。

問２では太陽の熱の程よい熱さを表す場合に使われる「あたたかさ」を選択した人が多く、85.7％を占めている。「太陽のあたたかさ」という表現の使用頻度が高いことが窺える。

問３. 和菓子にしてもイラストにしても、手作りの〈あたたかさ／あたたかみ〉が伝わる。

問３の原文は「手作りのあたたかさが伝わる」であるが「あたたかさ」を「あたたかみ」に置き換えられるかどうかを検証するために設問した。調査の結果、「あたたかみ」を選択した回答者は36人で64.3％を占めている。人間的な温もりを表す場合、「手作りのあたたかみが伝わる」という表現のように「あたたかみ」がよく用いられる傾向が窺える。

問４. 幼くして両親を亡くした夫には、結婚してどうしても幸せになってほしかった。家族の〈あたたかさ／あたたかみ〉を知ってほしかった。周囲の猛反対の中、私たちは駆け落ち同然で結婚した。

問４の原文は「あたたかさ」であったが、調査の結果、「あたたかみ」を選択した回答者は35人で62.5％を占めた。問３と同様、文の内容が人間的な温もりとかかわると考えられる。

問５. 類は友を呼ぶのか、この人に恥じない存在でありたいと願わせるのか。彼の周辺はやさしさと〈あたたかさ／あたたかみ〉に満ちている。

問５では、「あたたかさ」を選択した回答者が38名と多かった。状況は問４と似ているが、なぜ「あたたかさ」を選択した人が多いのだろうか。前文状況にある「やさしさ」に引かれ、「あたたかさ」を選択した人が多いとも考えられる。

問６. 鈴木信太郎は昭和の洋画壇で活躍した。〈あたたかさ／あたたかみ〉があり、色彩あふれる画風が特徴。

問６では絵を見る人に与える「ぬくもり」を表すため、「あたたかみ」を選択した回答者が多く、85.7％を占めた。

問７. 丸みのあるシルエットと淡い色合いが、優しさや〈あたたかさ／あたたかみ〉を感じさせるベッド。すっぽり収まる猫たちは気持ちよさそうだ。

問７では、「あたたかさ」を選択した回答者は26（46.4％）「あたたかさ」を選択した回答者は27名（48.2％）でほぼ同数であった。人間的な温もりを表す点が、問５と類似し、前文にある「優しさ」に引かれ、「あたたかさ」を選択した人が多いと考えられる。

問８. 三重の日本酒は、〈あたたかさ／あたたかみ〉があり芳醇な酒質が特徴。

問８は、「あたたかさ」を選択した回答者は12名で21.4％、「あたたかみ」を選択した回答者は43名で76.8％を占めた。酒の温度を表す「あたたかさ」ではなく、心の温もりの「あたたかみ」を表したいため、「あたたかみ」を選択した人が多い。

問９. 軽くさらっとした手触りの中に〈あたたかさ／あたたかみ〉のある独特の感触がある。

問10. 〈あたたかさ／あたたかみ〉のあるアイボリー色の布地に、枯れ草の切れ端が所々に織り込まれる。

問９と問10は「－みのある」の慣用表現である。「あたたかみ」を選択した回答者は問９で、43名で76.8％、問10は51名で91.1％といずれも明らかに多かった。

4. 終わりに

本稿は、中国人日本語学習者の日本語習得の視点から、日本語と中国語の形容詞の特徴の研究にかかわる諸問題について考察したものである。日本語形容詞の意味の持つ幅

が広いのに対して、中国語形容詞は数が多いという特徴が窺える。

また、コーパスとアンケート調査を用いて「あたたかさ」と「あたたかみ」の異同と使用傾向について考察した。「あたたかい」の意味をそのまま表す場合、両者を置き換えることが可能であると考えられる。「あたたかみ」は人間的な温もりを表すが多いが、この場合は「あたたかみ」を「あたたかさ」には置き換えられない。また、施設や家などの空間が帯びる「あたたかい感覚」は目のあたりにしたり接触したりすることができず、仮に「あたたかみ」と「あたたかさ」を入れ替えれば、その文の意味が変わってくることになる。

参考文献

王燦娟（2013）「品詞と意味における二重誤用されやすい日中同形語に関する研究『東アジア日本語教育・日本文化研究』，16，pp.29-56

清水邦子（1978）「接尾語 ――『み』と『さ』を中心に」早稲田大学語学研究『ILT News』，64，pp.33-45

杉岡洋子（2005）「名詞化接辞の機能と意味」大石強、西原哲雄、豊島庸二（編）『現代形態論の潮流』，くろしお出版，pp.75-94

根岸帆和（2006）「接尾辞〈的〉の用法の時代推移について」『日本文学文化』東洋大学日本文学文化学，6，pp.25-35

藤井佳子（2008）「形容詞名詞化の接尾辞－SAと－MIの違いの認知論的再考察」『プリンストン日本語教育フォーラム紀要』，15，pp.54-65

彭飛（2017）『中国語虎の巻　実力アップ15の秘伝〈増補改訂版〉』，東方書店

吉田雅子（2011）「漢語サ変動詞の日中対比」『専修大学外国語教育論集』，39，pp.39-56

用例出典

『朝日新聞記事1985～』

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

《BCC 汉语语料库》

〈能力義〉発現の要件
中国語助動詞“会”を中心に

李 東

要 旨

本稿は日本人学習者向けの中国語教育の視点から、中国語の助動詞“会”について考察するものであり、〈可能性義〉と〈能力義〉の観点に基づき、助動詞“能”との比較を通して、助動詞“会”の特徴を明確に示すことを目標とする。結論として、“会”の中心的な意味は〈可能性義〉にあり、〈能力義〉は特定の要件の下で産出される下位意義であると主張する。また、この要件の変化によって、〈能力義〉と〈可能性義〉で互いの置換が可能であるとも主張する。

0. 序章

序章では本研究の焦点と目的を紹介する。

中国語における可能表現は主として、助動詞を用いる場合と可能補語を用いる場合に大別される。本稿では以下、助動詞での形式、とりわけ助動詞“会”“能”を主な対象にして考察を進める。

可能表現という一点で類似する助動詞“会”“能”は、日本人中国語学習者での誤用が多い。例えば（例文での議論の対象部位に二重下線を施す、以下同様）、

(1) ＊[1)]我原来会开车，但我现在脚有伤，不会开车了。

日本語訳：以前は運転ができたのですが、今は足のケガで運転ができなくなってしまいました。

(1)の下線部では、“不会开车”に代わり“不能开车”を使用すれば、正しい中国語になる。この種の誤用には枚挙のいとまがないが、この誤用発生の原因が“不会开车”“不能开车”の日本語訳がいずれも「運転できない」という一形式に対応するためであることは、大方に首肯されるであろう。

では一体、「“不会”VP」と「“不能”VP」はどのように相違するものなのだろうか。以下、助動詞“会”の基本的な側面から考察する。

1）① 各例文に前置される略号は次の通り。
○：当該例文は成立する。
＊：当該例文は不成立である。
？：当該例文は不成立ではないが、かなりの不自然さを伴う。

1．先行研究の検証と本研究での分類基準

本章では助動詞“会”にかかわる先行研究を調査・検証する。またこれらを踏まえつつ、本稿での分類基準及び文中での例文の調査についても説明する。

1.1 先行研究

本節では、吕叔湘（1956）から朱德熙（1982）、周有斌（2010）を通じて展開された「可能三分類」と、高橋弥守彦（2008）、周国龍（2013）、安本真弓（2019）における「助動詞“能”“会”の意味」等の問題を中心に私見を加える。

1.1.1 吕叔湘から朱德熙、周有斌における「可能三分類」の展開

吕叔湘（1956）は「可能」義を以下の三つに分類している[2)]。

ⅰ〈能力義〉：“表示能力够得到够不到”
日本語訳：能力を備えるか否かを表す。

ⅱ〈許可義〉：“表示旁人或环境或情理许可不许可”
日本語訳：他人や環境、情理などが許可するか否かを表す。

ⅲ〈可能性義〉：“不含能力和许可的意思，仅仅估计将成事实与否的，这是最客观的可能，即‘或然性’”
日本語訳：「能力」や「許可」の意味を含めず、ただ事実になるか否かを推測し、これは最も客観的な「可能」、即ち「可能性」である。

その後、吕叔湘（1999）は助動詞“会”の意味を「❶やり方が分かっている、する能力がある、❷あることをするのが得意である、❸可能性がある」の三つにまとめている。更には助動詞“能”の意味を「❶事を行う能力や条件があることを表す、❷上手に行うことを表す、❸ある用途があることを表す、❹可能性のあることを表す、❺情理から許されることを表す、❻状況から許されることを表す」、の六つにまとめている[3)]。

上記の“会”の三分類と“能”の六分類は吕叔湘（1956）「可能三分類」からの細分化と見なすことも可能である。表１でその対応関係を示す。

表１　吕叔湘（1956）と吕叔湘（1999）の分類一覧

吕叔湘（1956）「可能三分類」	吕叔湘（1999）	
	“会”	“能”
〈能力義〉	“会”❶、❷	“能”❶（前半）、❷、❸
＜許可義＞		“能”❶（後半）❺、❻
＜可能性義＞	“会”❸	“能”❹

2）吕叔湘（1956）：p.250。
3）吕叔湘（1999）：pp.278-279、pp.414-415、但しここでの日語訳は1992年の日本語訳本 pp.183-184、pp.289-290による。

表１の中である程度の対応関係を示すことが出来ることから、吕叔湘（1956）から吕叔湘（1999）まで、「可能」に対しての根本的な考え方には大きな変化がないことが理解できる。また、「可能表現」自体について、吕叔湘（1956）の後の研究者も吕叔湘の考えを受け継いでいる。例えば、朱德熙（1982）と周有斌（2010）が典型であろう。

朱德熙（1982）は吕叔湘（1956）とは殆ど同じ形の「可能」を描いて、「“能、能够、可以、会”は行為主体の能力が、ある事態を達成できるか否かを言う；“会、能、可能”は外界の可能性を言う；“能、能够、得（dé）、可以”は状況として、あるいは道理として許可され得ることを表わす」[4]と述べている。本稿は、朱德熙（1982）の挙げた「可能」下位分類とそれぞれに付された助動詞の分布に賛同する。

また、周有斌（2010）は吕叔湘（1956）の説に基づいて、「可能三分類」から「可能二分類」への展開を示す[5]。周有斌（2010）の「可能二分類」と吕叔湘（1956）の「可能三分類」との対応は下記のようになる。

「能力類」　→　〈能力義〉＋〈許可義〉
「可能性類」→　〈可能性義〉

この分類は、助動詞“会”での意味の分類に寄与する一面、〈能力義〉と〈許可義〉が合併する理由についての詳しい説明がなく、これ以上の理解を深めることは難しい。

1.1.2 高橋弥守彦（2008）、安本真弓（2019）、周国龍（2013）

高橋（2008）の研究は助動詞“能”の記述を中心としたものであるが、“会”の〈能力義〉についても少し触れ、「“能”が主体の〈現在能力〉を表すのに対して、“会”は主体の行う出来事が練習の過程の中で、ある一定レベルまで出来るようになった〈レベル能力〉を表す」[6]と述べている。

周国龍（2013）は高橋（2008）を踏まえ、“会”と“能”をそれぞれ下記のように記述する。

> “能”：動作主の行為に関する能力を有すると推定し、その能力を実行するにあたって動作主の一時的な内的条件を有することが含意される。
> “会”：動作主の行為に関する能力を持続的に有することを意味する[7]。

また、安本真弓（2019）は中国語教科書と文法書における助動詞“能”と“会”の解説を検証しながら、“能”と“会”それぞれの特徴の相違点を比べ、次のような結論を出している。

4）朱德熙（1982）：pp.62-63、但しここでの日語訳は1995年の日本語訳本 pp.75-77による。
5）周有斌（2010）：pp.23-24。
6）高橋弥守彦（2008）：p.140。
7）周国龍（2013）：p.3。

“能”（「臨時的」・「動態的」）：話し手は「様々な状況の下、主語が［ある動作・行為］できる」との判断を行う。

“会”（「恒常的」・「静態的」）：話し手は「常態の下、主語が［ある動作・行為］できる」との判断を行う[8)]。

上記の高橋（2008）、周国龍（2013）、安本（2019）の論述は、いずれも〈能力義〉について詳しく記述し、助動詞“会”の〈能力義〉が持続性・恒常性を有し、“能”では臨時的で変化しやすい側面を持つ、という共通点が見られる。

1.2 本研究の分類基準

本稿の用例の一部は自作例であるが、多くは《现代汉语八百词》や《语法讲义》などの文法書から借用した例文と、《红高粱家族》、《家》、《骆驼祥子》などの文学作品から抽出した例文である。

本稿では、主に助動詞“会”の意味や用法を考察するが、便宜上、周有斌（2010）の「可能二分類」を参考にし、「可能表現」を表す助動詞“会”の意味を大きく〈可能性義〉と〈能力義〉の二つに分けて論を進めていく。

ここからは“会”の〈可能性義〉と〈能力義〉の相違について再考する。そのために“会”を含有する文を模式化して「A会VP」構文としておこう。ここで“会”の表す〈可能性義〉と〈能力義〉の判断基準は下記の通りである。それぞれ例文を付ける。

〈能力義〉：「A」自身の恒常的素質（先天的な能力や今までの練習、身につけた知識など）によってある動作を実行できるか否かを表す。

(2) 他不但会作词，也会谱曲。（《现代汉语八百词》）

日本語訳：彼は作詞がやれるばかりでなく、作曲もできる。

〈可能性義〉：「A」自身の恒常的素質だけではなく、一時的な「条件」にも関係し、ある動作を実行・実現できるか否かを表す。

(3) 四个现代化的目标一定会实现。（《现代汉语八百词》）

日本語訳：四つの近代化はきっと実現できるだろう。

本稿では、能力があるか否かは結局は出来事の発生する可能性に還元される問題であると考え、〈可能性義〉は助動詞“会”の中心義であり、〈能力義〉は〈可能性義〉から派生し、〈能力義〉は特定の要件の下での〈可能性義〉の意様態であると考えている。これは第３章で詳しく論述する。

一般的に「A会VP」では、「A」が主動性のある人間で、「VP」が動作主のコントロール

8）安本真弓（2019）：p.107。

できる自主動詞である場合、〈能力義〉が生まれやすい。一方、「A」が人間ではなく主動性を欠き、「VP」が動作主のコントロールできない非自主動詞である場合、〈可能性義〉が生まれやすい。この〈能力義〉と〈可能性義〉が成立する具体的な要件については、次章から考察する。

2. 助動詞“会”“能”と「条件」及び「情報」としての新旧

ここでの「条件」とは文が置かれる文脈中に顕現する前提等を指すが、〈可能性義〉を表す助動詞“会”“能”いずれもがこの「条件」に左右され、意義が決定される。本章では〈能力義〉を表すこの２種類の助動詞“会”“能”について、「条件」との関係及び「情報」の新旧の考察を通じて相違点を明示する。

2.1 助動詞“会”“能”と「条件」

本節では上述の「条件」にスポットを当て助動詞“会”“能”を考察する。次は〈能力義〉の例文である。

(4) 我会开车。　日本語訳：私は車を運転することができる。
(5) 我能开车。　日本語訳：私は車を運転することができる。

(4)、(5) は、同じ日本語にも訳される通り、同義に見える。しかし、否定文に変更すると相違点が表れる。

(6) 我不会开车。　日本語訳：私は運転することができない。
(7) 我不能开车。　日本語訳：私は運転することができない。

例文 (6)、(7) は日本語に翻訳すれば、「私は運転することができない」と同一であるが、中国人のネーティブスピーカーからすると、相違は明白である。例文 (6)、(7) に「条件」を添加すると、それは一層明確になる。

(8) 我没学过开车，我不会开车。　日本語訳：運転を習っていないので、運転できない。
(9) 今天喝酒了，我不能开车。　日本語訳：今日お酒を飲んだから、運転できない。
(10) ？我没学过开车，我不能开车。
(11) ＊今天喝酒了，我不会开车。

例(8)における“没学过开车”(「運転を習っていない」)は恒常的な「条件」であり、例(9)における“今天喝酒了”(「今日お酒を飲んだ」)は一時的な「条件」であるが、一般的に「条件」というと後者の一時的な「条件」のことを指す場合が多い。例(10)は文としては成立するが、やはり“能”ではなく“会”のほうがより自然である。一方、例(11)は非文法的になり、前後の「条件」により、“会”を用いるか“能”を用いるかに相違が生じる。

〈能力義〉を表す助動詞“会”と“能”の共通点や相違点についての研究は多い。高橋(2008)、周国龍(2013)、安本(2019)等の先行研究からすると、助動詞“会”は持続的・恒常的な〈能力義〉を表すが、“能”には臨時的で一時的な〈能力義〉を表す。また、周国龍(2013)の論述には“能”の定義として「条件」というキーワードが出ている。それによると、“能”の表す〈能力義〉には「動作主の一時的な内的条件」が伴う。例えば(9)では、「私」は「酒を飲んだ」という「一時的な内的条件」がつくため、「運転する」という出来事が実行できなくなったことを表す。

本稿は、助動詞“会”の〈能力義〉が「恒常的能力」を呈し、“能”が「臨時的能力」を示すという、上述の見解に賛同する。だがこれに加え、本稿は“能”の表す「臨時的能力」は「内的条件」だけではなく、「外的条件」にまで関係する、と主張する。次の例を見られたい。

(12)即便是下雪我也能开车。　日本語訳:雪が降っていても運転できる。

“下雪”(「雪が降る」)は動作主の「内的条件」ではなく、天気という「外的条件」であり、「私には雪路を克服できるドライブ能力がある」と解釈できる。このような「条件」にあたる場合、一時的な「臨時的能力」を表す“能”が使えるが、“会”に置き換えることはできない。

また、(4)の“我会开车”(「私は運転することができる」)は、内的な条件(体の調子や機嫌など)と外的な条件(天気が良いのか悪いのかなど)とは距離を置き、ただこの「能力」を備えているという事実を叙述するのみである。つまり助動詞“会”は、恒常的な「能力」の具有を表し、一時的「条件」によって変化する「能力」を表すものではない、と考えられる。

一方、(5)の“我能开车”(「私は運転することができる」)は、内的な「条件」と外的な「条件」から行為の実行(「運転する」)が許される「能力」を備えることを表現している。助動詞“能”は臨時的な「能力」を表し、一時的「条件」によって変化することを表すものなのである。

なお、冒頭に挙げた非文法的な例文(1)においては、“现在脚有伤”(「今は足にはケガがある」)のような一時的「条件」の影響を受けて何かをすることができなくなることを表しているために、文の成立には「“不会”」の代わりに「“不能”」を選ぶべきである。

要するに、助動詞“会”の表す〈能力義〉は一時的「条件」に左右されないため、「恒常的能力」を表す。一方、助動詞“能”の表す〈能力義〉は一時的「条件」に左右されるため、

「臨時的能力」を表す。表２にて、〈能力義〉における助動詞“会”“能”と「条件」の関係を示す。

表２ 〈能力義〉における助動詞“会”“能”と「条件」

助動詞	「条件」に左右されるか否か	能力義
“会”	−	「恒常的能力」
“能”	＋	「臨時的能力」

2.2 助動詞“会”“能”の情報としての新旧

次の例文は文法書、論文、教科書等でよく取り上げられているものである。

(13) ○我能游200米。　日本語訳：200メートル泳げる。
(14) ＊我会游200米。

この２例の相違について、安本(2019)説で解釈すれば、“能”は「臨時的」な「能力」を表すため、このように時が変わり、状態が変わった場合に適用できる。一方、“会”は「恒常的」な「能力」であるため、変化的な場合に用いることはできない。

が、本稿では別の観点から分析を試みる[9)]。

例文(13)の成立には次のような文脈が想定される。補充すると、下記の例文(15)になる。

(15) (我会游泳,) 我能游200米。　日本語訳：(泳げる、) 200メートルは泳げる。

ここでの“能游200米”(「200メートル泳げる」)には“会游泳”(「泳げる」)が前提として先に存在する。つまり、助動詞“会”“能”の表す　〈能力義〉を情報の新旧から考えると、「“会”⇒“能”」という潜在的な順番が存在するのである。更に次の例文をあげる。

(16) 你会游泳吗？　日本語訳：泳げますか。
(17) 你能游泳吗？　日本語訳：泳げますか。

(16)は相手が「泳ぐ」能力を持っているか否かについての質問であり、(17)は相手が「泳げる」という前提を把握した上で、外的「条件」または内的「条件」がそれを許すか否かについての質問であると理解すべきである。

つまり、情報としての新旧の視点から考えると、助動詞“会”の〈能力義〉は新情報で

9) この節の内容全般は、京都外国語大学 岡本俊裕教授からのご教示による。

あるのに対して、“能”では旧情報であり、“能”の前提条件として“会”は置かれるのである。

3. “会”の〈可能性義〉・〈能力義〉の置換の要件

本章では、中国の近代小説である《红高粱家族》、《骆驼祥子》、《家》で用いられる助動詞“会”の例文を抽出し、それぞれの特徴を分析し、“会”の表す〈可能性義〉と〈能力義〉が成立する要件について考察する。

上記小説中での当該助動詞の例は、序章で紹介した 〈可能性義〉と〈能力義〉の定義基準によって、その数を表３のようにまとめることができる。

表３ 《红高粱家族》、《骆驼祥子》、《家》における助動詞“会”の分布

	〈可能性義〉	〈能力義〉	合計
《红高粱家族》	60	16	76
《骆驼祥子》	121	33	154
《家》	157	6	163
総計	338	55	393

表３の中の助動詞“会”は393個の例を数えるが、〈能力義〉を表すのは55例にすぎない一方、〈可能性義〉は338例あり、〈能力義〉の６倍以上にもなり、“会”では〈能力義〉よりも〈可能性義〉としての現出のほうが圧倒的に高い出現頻度を示す。このことから、助動詞“会”の中心的な意味は〈可能性義〉にあることの示唆を受けることができる。またこの事実から、〈能力義〉が特定の要件の下で生まれる派生義であると考えることもできる。更には、〈能力義〉文の派生要件を分析することによって、〈能力義〉と〈可能性義〉を分ける特徴を描写することが可能になる。また、これらの要件を置換することによる〈能力義〉と〈可能性義〉の転換が観察できるはずである。

3.1 “会”の〈能力義〉の特徴

次は〈能力義〉の“会”の実例である。

(18) 余司令说：“你会使（枪）吗？” “会！”父亲说。（《红高粱家族》）
日本語訳：余司令官は、「拳銃は使えるかい」と聞いた。「もちろん！」と、父が答えた。

(19) 一般车夫万不能争这项生意的原因，大半还是因为这些吃洋饭的有点与众不同的知识，他们会说外国话。（《骆驼祥子》）
日本語訳：一般の車夫がこのビジネスに勝てない理由のほとんどは、この外

人専門の連中がちょっと変わった知識を持っていて、外国語を話せるからである。

(20) 觉慧正要答话，就被淑华抢先说了：“他不会踢（毽子），他踢不到十下！”（《家》）
日本語訳：覚慧が答えようとすると、淑華が「あいつは（羽根を）蹴れないよ、10回も蹴れないよ！」と先回りして言った。

これらの例での“会”に後接する動詞や動詞句（以下「VP」）は、“使（枪）、说外国话、踢（毽子）”のようにすべて動作を表現するものであるが、ここで動詞の分類を確認する。

袁毓林（1993）は現代中国語の動詞を下図のように分類する[10]。

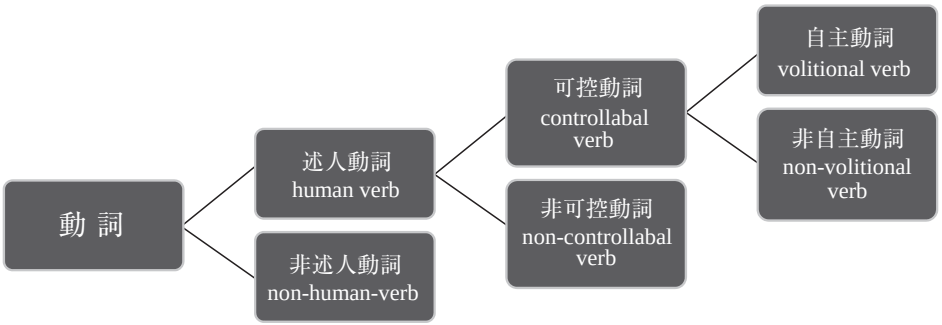

図　袁毓林（1993）現代中国語の動詞分類

「VP」が動作主のコントロール下にある動作の「自主動詞」の一部である場合、前置される“会”が 〈能力義〉を表現しうることは一般に首肯されるであろう。（18）（19）（20）における「VP」は、いずれも動作主のコントロール下にある動作の「自主動詞」である。そして袁毓林（1993）によれば、「自主動詞」は「述人動詞」の下位分類であるため、助動詞“会”の〈能力義〉の文での動作主体（「A」に現出する）は、主動性のある「ヒト」であるということが理解できる。上の各例もこのことに符合する。

つまり“会”が〈能力義〉を呈する場合の要件は次の通り：

- 「A」が主動性のある「ヒト」であり、
- 「VP」がコントロールできる「自主動詞」である。

更に次の例を観察しよう。

(21) 在这种时候，他也很会掏坏，什么横切别的车，什么故意拐硬弯，什么别扭着后面的车，什么抽冷子搡前面的车一把，他都会。（《骆驼祥子》）

10）袁毓林（1993）：pp.24-46。

日本語訳：こういうときに悪戯をするのが上手で、他の車を横切たり、わざとハードにコーナーを曲がったり、後ろの車をひねたり、前の車をもみくちゃにしたり、全部できるんだ。

(22) 爷爷一九五八年从日本北海道的荒山笄岭中回来时，已经不太会说话，每个字都像沉重的石块一样从他口里往外吐。(《红高粱家族》)
日本語訳：1958年に北海道の不毛の山から帰ってきた祖父は、もううまくしゃべることができず、一言一言が重い石のように口からこぼれていた。

吕叔湘(1999)は、助動詞“会”“能”には「あることをするのが得意である」という意味があり、そして助動詞“会”及び“能”の前によく“很、真、最”(非常に、本当に、最も)などの副詞を付ける[11]と指摘している。だが、例文(22)のように、助動詞“会”と共起できるものには“很、真、最”などのプラス評価のイメージの程度副詞だけではなく、“不太”(「あまり」)などのマイナス評価のイメージの程度副詞もあるため、「あることをするのが得意である」という説明は妥当性を欠く。本稿では、これらの程度副詞が前置され、助動詞“会”の表現する能力のレベルの多寡を示すことができるため、“会”の〈能力義〉の下位類意義として「程度能力」を設定する。

また、“会”に程度副詞の前置がなくとも、次の例のように一定の能力の高さを表現することができる。

(23) 我讲不过你，你进学堂读了这几年的书，自然会讲话。你会从你的新书本里面找出大道理来驳我。(《家》)
日本語訳：私はあなたを納得させることができない。あなたは学校にいて、過去数年間本を読んでいて、当然議論がうまいさ。あなたの新しい本からは、私に反駁するための大した理屈が見つかるでしょ。

例文(23)の“会讲话”の前には程度副詞がないが、“很”などの程度副詞を前置することも可能である。この例では文脈により、“会讲话”がただ「話すことができる」のみではなく、「議論がうまい」という意味を表すことが理解できる。このため、(23)は一般的な〈能力義〉の文ではなく、「程度能力」を表す文であると見てよい。

以上のように、〈能力義〉の下位類意義としての「程度能力」の現出要件は、“会”の前に程度副詞を置くことであるが、この程度副詞は省略が可能である。

3.2 “会”の〈能力義〉から〈可能性義〉への置換の要件

前節で“会”の表す〈能力義〉現出の要件について論じたが、これらの要件を変えれば、〈能

11)注2をご参照されたい。

力義〉から〈可能性義〉に置換することが可能である。例えば、

(24) 我会做饭。　日本語訳：私は料理を作ることができる。

(24)の“我会做饭”は、一時的な「条件」には関係なく、「料理を作ることができる」という恒常的な「能力」を備えているという事実を叙述している。もしここに一定の「条件」を加えると、〈能力義〉を〈可能性義〉に変えることが可能である。

(25) 爸妈不在家的话，我会做饭。　日本語訳：両親がいなければ、私が料理を作る。

(25)の“我会做饭”は、“爸妈不在家”(「両親がいない」)という一時的「条件」の下で、「私が料理を作る」という動作行為実行の「可能性」を表す。つまり、(25)は例文(24)に一時的「条件」を加えたために、「条件」に左右されない〈能力義〉から、「条件」に左右される〈可能性義〉に変化したのである。

反対に(25)から“爸妈不在家”(「両親はいない」)という一時的「条件」を除外すれば、“我会做饭”は「私は料理を作ることができる」という「恒常的能力」を備えているという事実の叙述になる。

このように、一時的「条件」を加減することによって、“会”の〈可能性義〉と〈能力義〉は互いの変換が可能であるが、この変換操作を「条件加減」と呼ぼう。

次に「条件加減」以外の変換操作について考察を進める。

(24) “我会做饭”は実際には多義的であって、「条件加減」の手段によって〈能力義〉と〈可能性義〉がお互いに変換できる。が、次のような変形はどうであろうか。

(24a) 我很会做饭。　日本語訳：私は料理を作るのが上手だ。
(25a) ＊爸妈不在家的话，我很会做饭。

(24a)には助動詞“会”の前に程度副詞“很”が付くため、「程度能力」の例になったが、(25a)では非文法的であり成立しない。これは程度副詞“很”が(24)の〈能力義〉と〈可能性義〉の多義性を解消し、(24a)の単義の文としたためである。

更には、(21)、(22)における「VP」の“掏坏”(「悪戯をやる」)、“说话”(「話す」)の特性に関しても考慮が必要である。「話す」は誰でもできる普通の動作で、更に「悪戯をやる」などはマイナス評価のイメージを持つ動作であり、典型的な〈能力義〉を表現する動作行為とは異なる。「VP」がこのような特性を有する場合、多義性の発揮はより容易となり、曖昧性が生まれやすいのではないか、と考える。この点については、今後も考察を継続

する。

本節の主張を再度記す。

- 「条件加減」の如何によって、“会”の〈可能性義〉から〈能力義〉へ、また〈能力義〉から〈可能性義〉への変換が可能である。
- “会”への程度副詞の前置付加は〈可能性義〉を消去し〈能力義〉を明確にする。

また以上の分析から、次の主張を再度明示しておきたい。

- 助動詞“会”の中心的な意味は〈可能性義〉であり、〈能力義〉は一定要件下で発揮される二次的な意義である。

4. 終章

本稿では日本語母語話者に対する中国語教育の視点から助動詞“会”を考察し、〈可能性義〉と〈能力義〉の弁別と、助動詞“能”との比較を通じて、“会”の特性をいくつか明示した。最後に“会”の〈能力義〉の特性と成立要件を下記のようにまとめる。

Ⅰ.「能力」には一時的「条件」に左右されない恒常性がある。
Ⅱ.（「A会VP」において）「A」は主動性のある人や動物である。
Ⅲ.「VP」は動作主「A」のコントロールできる「自主動詞」である。
Ⅳ. 下位意味の「程度能力」の「VP」が程度副詞と共起しうる。

また、〈能力義〉と〈可能性義〉は截然と二分されるものではなく、「条件加減」等によって上記の諸特性や成立要件を変えれば、互いの変換も可能である。

Ⅴ. 文中に一時的「条件」を加えると、〈能力義〉文から〈可能性義〉文に変換できる。
Ⅵ. 文中の一時的「条件」を除くと、〈可能性義〉文から〈能力義〉文に変換できる。

「条件加減」のほか、「程度副詞加減」によって、〈可能性義〉と〈能力義〉の多義性を解消することができる。

参考文献

【日本語】

高 恩淑（2011）「現代日本語における可能表現の意味分類について：実現可能性の有り処を基準

に」『京都大学言語学研究』30: pp.51–70

周 国龍（2013）「可能表現“会”と“能”の使い分け」『鈴鹿国際大学紀要 CAMPANA』20: pp.1–10

高橋 弥守彦（2008）「可能表現に用いる能願動詞 “能”」『日本語と中国語の可能表現』日本対照言語学会　白帝社：pp.133–169

安本 真弓（2009）『現代中国語における可能表現の意味分析』　白帝社

安本 真弓（2019）「中国語可能表現のメカニズム」『跡見学園女子大学文学部紀要』54: pp.95–109

【中国語】

刘 月华（1980）〈可能补语用法的研究〉《现代汉语补语研究资料》北京语言学院出版社：pp.312–332

刘 月华・潘 文娱・故 韡（2001）《实用现代汉语语法（增订版）》商务印书馆

鲁 晓琨（2008）〈以 “能” 为纽带的现代汉语可能表达系统〉『日本語と中国語の可能表現』日本対照言語学会　白帝社：pp.171–186

吕 叔湘（1954）《中国文法要略》商务印书馆

————（1999）《现代汉语八百词（增订本）》商务印书馆　同書日本語訳：牛島徳次 監訳　凌沼透 訳（1992）『中国語用例辞典』　東方書店

吕 叔湘・王 海棻编著（2019）《马氏文通读本》上海教育出版社

马 庆株（1988）〈自主动词和非自主动词〉《著名中年语言学家自选集 马庆株卷》安徽教育出版社：pp.160–191

沈 家煊（1989）〈“判断语词” 的语义强度〉《中国语文》1989年第1期：pp.1–8

王 力（1954）《中国现代语法》中华书局

袁 毓林（1993）《现代汉语祈使句研究》北京大学出版社

周 有斌（2010）《现代汉语助动词研究》北京师范大学出版集团 安徽大学出版社

朱 德熙（1982）《语法讲义》商务印书馆　同書日本語訳：杉村博文・木村英樹 訳（1995）『文法講義』　白帝社

謝辞

本稿の執筆において、京都外国語大学外国語学部教授 岡本俊裕先生にご指導を賜った。但し当然ながら、本稿における過誤はすべて筆者の責めに帰するものである。

漢字圏日本語学習者に難解な日本語
「よく」の用い方や誤用傾向についての考察

趙 璇

要 旨

「よく」の誤用に関する研究は日本語を外国語として学習している人の習得上の重要な一環である。本論文では、漢字圏日本語学習者を研究対象に、彼らの授業における発表、作文、対話に出てくる「よく」の誤用例をもとにして、漢字圏日本語学習者の「よく」の用い方や誤用の特徴を研究する。

日本語の「よく」の用い方の特徴及び漢字圏日本語学習者への指導の注意点について、次のようにまとめる。❶「よく」は「よい」に由来するものの、必ずしも「よいこと」を指すとは限らない。❷日本語の「よく」は「よく～してくれる」の形としてよく用いられ、相手への感謝の気持ちを表す。一方、痛烈な皮肉としても用いられる。❸「よく分からなかった」「よく彼に伝えられなかった」の「よく」の使い方は学習者には難解である。そして、誤用と認定できる理由には４つのタイプとまとめる。また、副詞「よく」の誤用となったものがでる理由について触れていないため、今後の課題がまだ残っていると考えられる。

はじめに

現在、漢字圏では日本語を外国語として学習している人数は増え続けている。初級から中上級へ進むにつれていろいろな文法項目の習得上の問題点が出てきており、そのため習得上の問題点を明らかにし、適切な指導法を提案するのが課題となっている。その中で「よく」の誤用に関する研究も重要な一環だと思われる。本論文では、漢字圏で勉強している漢字圏日本語学習者（以下は「日本語学習者」）と略す）を研究対象にして、彼らが授業での発表や作文、対話などに出てくる「よく」の誤用例をもとにして、日本語学習者における使用上の誤用の特徴を研究したい。そこで、研究する際に、『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12[1)]から日本語学習者が産出した誤用例を精査すると、日本語学習者は、現代日本語の副詞「よく」に関する誤用例が見られる。そこで同コーパスを利用して日本語学習者の「よく」の使用と誤用の傾向について分析する。

本論文は日本語学習者を対象とする日本語習得の調査及び難解な日本語の用い方の特

1）于康（2021）『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.12。ファイル数5,044、文字数約660万字、誤用タブ数12万（異なり誤用数）データの内訳：中国語母語話者の日本語作文のみ。56校の大学から集められた学部生、大学院生、日本語教員の作文。日本語学歴（使用歴を含む）は3ヵ月から38年まで。

徴に関して考察するものである。とりわけ、日本語学習者に難解な日本語の「よく」の用い方や誤用傾向について考察することを目的とする。

1.「よく」の用い方の特徴

多義語である「よく」を研究するためには、「よく」の分類についての検討が必要である。筆者は日本語の「よく」の用い方の特徴及び日本語学習者への指導の注意点について、次の(1)～(3)のようにまとめる。

(1)「よく」は形容詞「よい」に由来しているものの、必ずしも「よいこと」を指すとは限らない。

下記に例を示す[2)]。

（例１）これは、裏切る人がよく行う裏切り行為だ。
（例２）よく「嘘をつく人」は、嘘に対して罪悪感がない。どうでもいいような些細な嘘を、常に生み出している。
（例３）両親が不仲で、特に父親は威圧的で叱り方が厳しく、よく叩かれた。
（例４）インドネシアの計算機はよく壊れるという話も聞いたことがある。

上記の例(1)～(4)で分かるように、いずれも好ましくない事柄である。マイナス評価の構文でも「よく」が用いられるという特徴がわかる。下記の(5)、(6)も同様である。

（例５）初心者の方が家庭菜園を始めようとするときに、よく失敗してしまうことは、スペースをあまり考慮せずに野菜を植えすぎてしまう。
（例６）退職金や年金を財産分与に含めるかどうかがよく争われる。

「よく失敗する」「よく争われる」「よく壊れる」のように、後続する動詞自体はマイナス評価を意味する動詞である。

下記(7)、(8)に例を示す。

（例７）お前、よくこんなにもお金のために、私を裏切れるものだ。
（例８）よくも私の昼寝を邪魔してくれたな。

2）本論文に使用する日本語の例文は、全部『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』、グーグルにおける新聞記事や作文などから収集したものである。

上記の例(7)、(8)で分かるように、相手に向かって「よく」「よくも」を用いることにより、話者の「相手への思いもよらぬ行為への憤慨や非難」の語調が読み取れる。

(2)日本語の「よく」は「よく～してくれる」の形としてよく用いられ、相手への感謝の気持ち、感嘆の気持ちを表す。一方、痛烈な皮肉としても用いられる。

筆者は日本語の「よく～してくれる」構文は下記のように６種類に分けることを試みる。

①第１類：最高の感謝の気持ちを表す「よく」

(例９)母は生前、よくアカシアの花のてんぷらを作ってくれた。

(例10)幼いころ病弱だったのに、両親はよくここまで私を育ててくれたものと思う。

(例11)私が忙しい時、夫はよく家事を手伝ってくれた。

上記の例(9)～(11)は「テクレル」第１類に分類する。回数が多い(頻度が多い)ことを表しその背後に感謝の気持ちが含まれている「よく」は最高の感謝の気持ちを表す表現である。

②第２類：「相手のしてくれる行為」への気持ちを表す「よく」

(例12) カウンセリングも丁寧に行ってくださり、よく話を聞いてくれた。

(例13) わずかな消費量にもかかわらず、メーカーがよく相手にしてくれたものである。

(例14)「よく丁寧に答えてくれました」って感謝して来た、お礼に来た。

上記の例(12)～(14)は「テクレル」第２類に分類する。「相手のしてくれる行為」への感謝の気持ちを表す表現である。

③第３類：「話者の期待通りに行動してくれたこと」への感謝の気持ちを表す「よく」

下記に例(15)～(17)を示す。

(例15) まず、よくここまで仕上げてくれたことに感謝している。

(例16) よくここまで頑張ってくれたよ。

(例17) よく無事に生きてくれたねって、涙が止まらなかった。

上記の例(15)～(17)は「テクレル」第３類に分類する。「話者の期待通りに行動してくれたこと」への感謝の気持ちを表す表現である。

また「よく死んでくれた」「よくやめてくれた」のように感謝の気持ちを表すものではないが、「話者の期待通り」のことを表す場合にも用いられる。

④第４類：話者の感嘆や驚きの気持ちを表す「よく」
下記に例を示す。

（例18）私の話を聞いていて、まず医師は、「よくご存じですねえ」と感心してくれた。
（例19）ようやく、終盤まで来たことを、よくよく実感させてくれた。

上記の例（18）、（19）は「テクレル」第４類に分類する。「話者（相手）の行為への相手（話者）の意外的な感嘆・反応」、また「実感させてくれた」のように相手の努力に対する話者の感嘆や驚きの気持ちを表す表現である。

⑤第５類：「相手の『怒る』『批判する』『けんかする』という行為」への感謝の気持ちを表す「よく」
下記に例（20）～（22）を示す。

（例20）私のためによく怒ってくれる。
（例21）私のためによく批判してくれる。
（例22）母は教育方針のためによく父とけんかしてくれる。

上記の例（20）～（22）は「テクレル」第５類に分類する。「よく」＋「マイナス動詞」＋「てくれる」の組み合わせにより、「話者自身の成長のため、まだ話者自身のプラスになる相手の『怒る』『批判する』『けんかする』という行為」への感謝の気持ちを表す表現である。

⑥第６類：皮肉を表す「よく」
下記に例（23）、（24）を示す。

（例23）よく皆の前で私に恥をかかせてくれたな。
（例24）よく面倒を起こしてくれる。

上記の例（23）、（24）は「テクレル」第６類に分類する。「よく～してくれる」の形は痛烈な皮肉として相手を非難する場合にも用いられる。

李佳娟（2016）の研究において、「よく」を頻度・程度・評価といった少なくとも三つの用法を分類している。
筆者は上記の考察でも分かるように、「よく」の基本義は「頻度」「程度」を表すものである。しかし、言語生活において、「頻度」「程度」を表す語を使うことにより、話者の

相手へのプラス評価やマイナス評価を表すことができる。「よく」のほか、日本語の「すこし」、「ちょっと」なども同様、副詞でありながら、話者の態度、評価を表すことができる。

(3)「よく分からなかった」「よく相手に理解してもらえなかった」「よく彼に伝えられなかった」の「よく」の使い方は学習者には難解である。

「よく分からなかった」はいったい「少しだけ分からなかった」という意味なのか、「全然分からなかった」という意味なのか、それとも相手に配慮して「分からなかった」という表現をやわらげるため「よく」をつけ加えたのか、学習者ならだれでも疑問をもつ。

下記に例(25)、(26)を示す。

(例25) 新聞もそれ以上の細かい報道がないのでよくわからない。
(例26) よくわからないままに、私は趣味の話や転職の悩み、世間話をしまった。

上記の例(25)、(26)のように、「よく分からなかった」は話者が物事の情報が明らかになっていない場合によく用いられる。「分からなかった」という表現をやわらげるため「よく」をつけ加えた場合もあれば、「はっきり分からなかった」という意味を表す場合もある。ただし、相手を責める意が読み取れない。

下記に例(27)を示す。

(例27) 何度言っても、よく理解してもらえないぞ！

上記の例(27)のように、「よく相手に～してもらえなかった」は「相手が全然理解できなかった」より丁寧に聞こえ、非常に柔らかい表現となる。

下記の例(28)、(29)を考える。

(例28) 残念だったのは「都合よく」という気持ちがよく伝わらなかったところ。
(例29) 自分の考えをよく伝えられないし、課題に取り組むのが大変でも逃げられない状況で、よく最後まで続けられたと思うと経営革新塾を振り返っている。

上記の例(28)、(29)のように、「よく」を付け加えることにより、文全体はいくぶんやわらげられる。

2.「よく」の誤用例および誤用の傾向

今回の『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』は作文コーパスであるため、会話の中にしか出てこない評価を表す「よく」の用例の数が極めて少ないため、評価を表す副詞「よく」は本論文の研究対象外にする。誤用と見られる理由のタイプによって分け、誤用の傾向を明らかにする。

前述「よく」の用い方によって誤用と認定できる理由には４つのタイプがある。１つ目は構文的特徴の理解に関するタイプで、２つ目は意味の理解に関するタイプで、３つ目は文体と使用の理解に関するタイプで、４つ目は表出重複に関するタイプである。

(1) 構文的理解の不足による誤用

下記に例を示す。

（例１）やさしくて美しい女の子です。二年生から三年生までいつも一緒に座りました。当時，私たちの成績はクラスで〈よく→~~よく~~〉前の方でしたから，時々雰囲気が変でした。自分の点が彼女より高かったら，心の中で嬉しくて得意でした。（学部１年／学習歴１年／作文）

例 (1) では、様態を表す「よく」は意志的動作を表し、反復性を持たない動詞と共起できない。ここの「成績は前」は反復性を持たないため、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例２）月曜日から金曜日までわたしは毎朝六時半ごろおきます。それから、洗面所で歯を磨きます、顔を洗います。〈よく→あまり〉運動所へ行きません。時ごろがくせいの食堂で朝ごはん食べます。朝ごはんには肉饅頭を食べます。（学部１年／学習歴１年／作文）

（例３）あまり運動所へ行きません。７時ごろがくせいの食堂で朝ごはん食べます。朝ごはんには肉饅頭を食べます。〈よく→あまり〉パンは食べません。食堂から教室まで、じっぷん歩きます。それから日本語の朗読をします。（学部１年／学習歴１年／作文）

（例４）日本ドラマを見ました。日本語の授業中、よく先生に質問を聞かれました。それで、少し緊張しました。普段は〈よく→あまり〉勉強してないので、期末にいつも忙しかったです。（学部１年／学習歴１年／作文）

(2)～(4) では、頻度を表す副詞「よく」を否定する場合、「あまり～ない」を使うのが適

切で、共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、これは構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例５）これは確かに〈よく→いい〉本で、時間があれば、皆さんも読んだほうがいいです。（学部１年／学習歴１年／作文）
（例６）私は上海海事大学の日本語科一年のかいです。私は〈よく→いつも〉六時に起きます。それから、私は洗面所で歯を磨きます。顔を洗います。毎日七時ごろ食堂で朝ご飯を食べます（学部１年／学習歴１年／作文）
（例７）優秀な大学生になるために、わたしは大学の四年の時間を使って、たくさん知識と技能を学んで、時間を〈よく→うまく〉利用をしたいと思います。（学部１年／学習歴１年／作文）

例(5)では、様態を表す「よく」は動詞しか修飾できないが、ここの「本」は名詞であり、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例(6)では、頻度を表す「よく」は名詞述語文を修飾できず、しかし「六時に起きます」は名詞述語文で、頻度を表す「よく」と共起できず、共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、これは構文的特徴の理解に関するタイプである。

例(7)では、様態を表す「よく」と共起できる動詞は、意志動詞且つ「動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなる」という性質を有しなければならない。ここの「利用したい」は意志を表し、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例８）今でもアニメが大好きです。毎日アニメを見ないと眠れないほどアニメが大好きです。アニメが〈よく→きちんと〉理解できるように、日本語を勉強しました。今の私が日本語学科の学生になったのも、アニメのおかげかもしれないです。（学部１年／学習歴１年／作文）
（例９）まず，日本語を〈よく→しっかり〉勉強するために，電子辞書を買います．今の携帯電話は使いにくいから，新しい電話を買います。（学部１年／学習歴１年／作文）
（例10）自習の時間がない。それで、強引に朝自習をしにくる。実は自習の時間を絞ってくれた。もし〈よく→じょうずに〉利用すれば、効果が大きい。（学部１年／学習歴１年／作文）

上記の(8)～(10)では、様態を表す「よく」と共起できる動詞は、意志動詞且つ「動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなる」という性質を有しなければならない。ここの「理解」「勉強」「利用」は〈反復性〉を持つ動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなるという性質を持たないため、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例11）今の若者はたばこを吸う人が少ないが、お酒を飲む人が多い。父母たちは喫煙をよく禁止する。しかし飲酒は〈よく→あまり〉禁止しない。家の中で、子供と父母は一緒にお酒を飲むことが多い。（学部３年／学習歴３年／作文）
（例12）高橋良子が述べているように、敬語表現という武器を〈よく→上手に〉使えば、私たちは自分の社会的な立場をわきまえることができる。しかも、他人との人間関係もうまくできるよ（学部３年／学習歴３年／作文）

例(11)では、様態を表す副詞「よく」を否定する場合、「あまり～ない」を使うのが適切で、共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、これは構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例(12)では、様態を表す「よく」は条件を表す表現と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、これは構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例13）銀行で働いて、十人並びの器量で、業績がまあまああって、妻子がいて、業務に忠実で家族を養って、〈よく→あまり〉話をしなくて、たとえ話を始めても、ほとんど意味がなくて、おもしろくない――要するに、形象は非常に白湯みたいな人。いかなる社交場所にいても、ぱっとしない。実に、間違いなくこのような友達が一人いるだけではなく、実は、あなたがこのような人かもしれない。（学部３年／学習歴３年／作文）

例(13)では、主に量を表す副詞「よく」を否定する場合、「あまり～ない」を使うのが適切で、共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、これは構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例14）この間、あるニュースが〈よく→とても〉私を感動させた。地下鉄の中である女の人はなにか体の調子が悪くて嘔吐した。周りの人たちはただ嫌がる様子（学部３年／学習歴３年／作文）
（例15）私は、若者のマナーが〈よく→よい〉かどうかは家庭からの教育が重要な役割

を果たしていると思う。私自身が体験したことを例にしてみよう。（学部３年／学習歴３年／作文）

（例16）語より付加表現を使う傾向がある。それを使うとき、日本人は「話し手の過失」を言うことが多いが、中国人は〈よく→よく〉「聞き手の負担」に焦点をあわせる。（学部４年／学習歴４年／卒論）

（例17）日本語の特有の現象として、言語生活の中では多くの授受表現から主語が〈よく→~~よく~~〉推測できる。授受動詞も主語の推測を支える言語構造の仕組みの一つであると言われている。（学部４年／学習歴４年／卒論）

例（14）では、程度量を表す「よく」は動詞しか修飾できないが、ここの「私」は名詞であり、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例（15）では、主に「マナー」の良さを表す表現、つまり「マナーはいいか悪いか」を表現する場合には「よく」に使えない、共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例（16）では、頻度を表す「よく」は静的述語と共起できないが、ここでは「焦点をあわせる」は静的述語として使われ、頻度を表す「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例（17）では、「推測できる」は時間の概念を含まず、本来的状態を表すもので、頻度を表す「よく」と共起しにくい。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例18）他動詞はもちろん、自動詞によって作られた受身文もある。中国語や英語と〈よく→~~よく~~〉違い、日本語には自動詞による受身文の特別な表現形式がある。（学部４年／学習歴４年／卒論）

（例19）実は、紙の本もいろいろな欠点をもっているはずだ。長い時間が経て、〈よく→うまく〉保存されなかったらなくなる可能性がある。（学部４年／学習歴４年／卒論）

上記の例（18）では、主体の状態・属性を表す時、程度量を表す「よく」と共起できる動詞の種類は変化動詞、状態動詞、属性表現化した可能動詞、属性を表す動詞、態度の現れに関わる動きを表す動詞であるが、「違う」は以上のどの種類にも属していないため、「よく」と共起できない。

共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的

特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例（19）では、様態を表す「よく」と共起できる動詞は、意志動詞且つ「動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなる」という性質を有しなければならない。ここの「保存されなかった」は〈反復性〉を持つ動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなるという性質を持たないため、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例20）しかしながら、男性は倒置の文型を使う場合が〈よく→~~よく~~〉多い。男性の語気は非常に強烈である。（学部４年／学習歴４年／卒論）

（例21）全体的に、日本人はほとんどの場合で「定型表現」を使っており、〈よく→~~よく~~〉自分の間違いを認め、責任をとると考えられるが、中国人は「定型表現」だけでなく、よく相手に好意を表し、親切で積極的な方法をとり、「付加表現」を使う。（学部４年／学習歴４年／卒論）

例（20）では、程度量を表す「よく」は動詞しか修飾できないが、ここの「多い」は形容詞であり、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

例（21）では、程度量を表す「よく」は動詞しか修飾できず、ここの「自分の間違い」は「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（2）意味理解の不足による誤用

下記に例を示す。

（例22）母は高い学歴はありません。しかし、〈よく→~~よく~~〉たくさんのことを知っているようです。母はまた、よく私にいろいろ物事の道理を教えてくれます。（学部１年／学習歴１年／作文）

例（22）では、「よく知っている」ことを表したいが、量を表す副詞と間違って使ってしまい、「たくさん」は「こと」を修飾する場合には「よく」に使わないについての理解が不足しているため誤用となったもので、文体と使用の理解に関するタイプの誤用例である。

（例23）それに、ゴミを出すとき、〈よく→きちんと〉分類して出すほうがいい。（学部２年／学習歴２年／作文）

例（23）では、適切に「分類する」様子を表したいが、「よく」はそのような意味を持たない。「よく」が有する意味そのものについての理解が不足しているため誤用となったもので、意味の理解に関するタイプの誤用例である。

（例24）人気のあるアニメを探して〈「　」→よく〉見るようになった。アニメについてのことも少し習った。（学部２年／学習歴２年／作文）
（例25）そういう意味で加油は相手のことを激励する言葉で、運動競技で応援時の掛け声として〈「　」→よく〉使われている。（学部２年／学習歴２年／作文）

例（24）と（25）では、頻繁に「使われている」「見る」ことを表したいが、「よく」がどのような頻度を示すためのものなのか、すなわち、「よく」が有する意味について理解が不足している。そのため誤用となったもので、意味の理解に関するタイプの誤用例である。

（例26）ただ自分の進む方向を探して前進し続けます。今、私の目標は日本語能力試験一級を〈よく→十分に〉準備し、いい成績を取ることです。（学部２年／学習歴２年／作文）

上記の例（26）では、様態を表す「よく」と共起できる動詞は、意志動詞且つ「動作を重ねれば重ねるほど結果がよくなる」という性質を有しなければならない。ここの「いい成績をとることです」は意志を表し、「よく」と共起できない。共起する述語のタイプに関する理解が不足しているため誤用となったもので、構文的特徴の理解に関するタイプの誤用例である。

（例27）日本のドラマは大部分のテーマが積極的だ。〈よく→いつも〉このようなドラマを見れば、人も明るくなるかもしれない。（学部３年／学習歴３年／作文）

上記の例（27）では「このようなドラマを見る」の生起回数の多さを表したいが、「よく」が頻度を表す時、生起回数の多さは人によって違い、ここで「このようなドラマ」を連続的に「見れば」ということをはっきり説明するために、「いつも」を用いることが適切である。「よく」が有する意味そのものについての理解が不足しているため誤用となったもので、意味の理解に関するタイプの誤用例である。

（3）文体の使用に関する誤用

下記に例を示す。

（例28）ドラマやアニメをたくさん見ているうちに、その中の話がだんだん分かるようになった。達成感っていうものを〈よく→しばしば〉感じる。先学期、私はルームメートと一緒にアフレコ大会に参加して三等賞をもらった。特に優秀ではなくても（学部２年／学習歴２年／作文）

例（28）では、頻度を表す「よく」は主に話し言葉として使われ、文章である場合は「しばしば」を使う。文体による使用の差異が理解できず起こった誤用で、これは文体と使用の理解に関するタイプの誤用例である。

（4）表出重複に関する誤用

下記に例を示す。

（例29）出身地は山東省青島市です。海辺で成長したので、海のことが大好きです。毎日海を見ることができたので、〈よく→いつも〉気持ちがよかったです。（学部２年／学習歴２年／作文）

上記の例（29）では、いつも「気持ちがよい」ことを表したいが、前の文脈に「毎日」があり、頻度を表す「よく」と重複になるため誤用となったもので、これは表出重複に関するタイプである。

（例30）それに対して、中国語では、「虎」は〈よく→~~よく~~〉「狼」あるいは伝説の動物「竜」としばしば同時に使われる。（学部４年／学習歴４年／卒論）

例（30）では、後ろの文脈に「しばしば」という頻度副詞があり、頻度を表す「よく」と重複になるため誤用となったもので、これは表出重複に関するタイプである。

（1）から（30）は『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』から抽出した学習歴１年から４年の学習者が産出した副詞「よく」の誤用例で、その中学習歴１年の学習者未満の方は80例があり、２年の学習者の方は51例、３年の学習者の方は19例、４年の学習者の方は51例、合計201例がある。

全体から見れば、副詞「よく」の誤用と見られる理由で１番多かったのは、構文的特徴の理解に関するタイプで、合計162例があり、学習歴の経過の連れにも関わらず誤用比率はあまり変化がない。２番目は意味の理解に関するタイプで、合計20例があり、学習歴１年未満から学習歴３年未満の間、誤用比率は下がっているが、学習歴４年未満になって少し上がった。３番目は表出重複に関するタイプで、合計14例があり、誤用比率

の変化は２番目の意味の理解に関するタイプと同じ。４番目は文体と使用の理解に関するタイプで、５例しかなく、学習歴１年未満の場合である。

おわりに

「よく」の用い方について、以下にまとめる。

第一に「よく」は「よい」に由来するものの、必ずしも「よいこと」を指すとは限らない。第二に日本語の「よく」は「よく～してくれる」の形としてよく用いられ、相手への感謝の気持ち、感嘆の気持ちを表す。一方、痛烈な皮肉としても用いられる。第三に「よく分からなかった」「よく相手に理解してもらえなかった」「よく彼に伝えられなかった」の「よく」の使い方は日本語学習者には難解である。

本論文は、限られたデータや分析視点のため、必ずしもその結論は一般化できるとはいえないが、学習難易度を解明するための１つの試みとして、有益な考察が得られたと考えられる。

本論文では、作文コーパスである『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習コーパス』を使ったため、ほぼ会話の中にしか出てこない評価を表す「よく」の用例は極めて少なかった。そのため、評価以外の用法の副詞「よく」に絞って学習難易度を解明する必要がある。また、副詞「よく」の誤用となったものがでる理由について触れていないため、今後の課題がまだ残っていると考えられる。

参考文献

日本語文献

(1) 于康（2012）「ねじれ誤用について――中国語母語話者のテンス・アスペクトの中国語母語話者日本語学習者のテンス・アスペクト誤用を手がかりに」，『漢日語言対比研究論従』3，p. 22–33，北京大学出版社.

(2) 川端元子（2016）「副詞「よく」の評価性について」，『愛知工業大学研究報告』51，p.12–19，愛知工業大学.

((3)近藤仁美（1986）「多義の副詞「よく」についての考察」，『国語学研究』26，p.100–108，東北大学文学部国語研究室内「国語学研究」刊行会.

(4) 李佳娟（2016）「副詞「よく」の多義性」，博士論文，中央大学.

中国語文献

(5) 杜宜衿（2011）《形容詞的副詞性用法――以表示程度之用法為中心――》，国立政治大学院日本語文學系，學位論文.

(6) 唐千友（2007）《副词「よく」的修饰限制研究――以意志型文末为中心》，p.73–75, 宿州学院学报.

執筆者紹介

王　昊天　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

尚　煜琛　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

李　政澤　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

金　東昊　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

李　　東　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

趙　　璇　京都外国語大学大学院 博士前期課程・言語文化コース（東アジア領域）

編集代表

彭　飛
（京都外国語大学　大学院外国語研究科長　日本語学科教授）

編集委員会

編集委員長

天野沙織
（京都外国語大学大学院 博士前期課程 異言語・文化専攻 言語文化コース）

編集委員

侯　遠方
（京都外国語大学大学院 博士後期課程 異言語・文化専攻　言語文化領域）

編集後記

2007年の創刊以来、大学院紀要『言語と文化』は今年で第17号目を迎えました。これもひとえに本紀要への関心を示してくださる関係者のみなさまのご協力によるものだと感謝しております。本号刊行にあたり、ご多忙の中、執筆者のみなさんのご指導をしてくださいました諸先生方、留学生のサポートをしてくださった編集代表でいらっしゃる彭飛先生、刊行に関する相談に乗ってくださった大学院事務室のみなさまに、心から感謝いたします。

また、本紀要『言語と文化』が、多くの方にご覧いただけますことを心より願っております。

（編集委員長　天野沙織）

『言語と文化』原稿執筆要項

1．執筆資格

本学在籍中の大学院生、および編集委員会が認めたものとする。

2．原稿の種類

論文、研究ノート、書評、翻訳およびその他、編集委員会が認めたものとする。

3．原稿の枚数

論文は38字×32行を１ページとして以下の分量を目安とする。

1） 論文：約12,000字（A4で10頁程度、上限はA4で14頁とする）。
研究ノート：約8,000字（A4で7頁程度、上限はA4で8頁とする）。
翻訳：約12,000字（A4で10頁程度、上限はA4で10頁とする）。
書評：約2,000～2,800字（A4で1～2頁程度、上限はA4で2頁とする）。

2） 欧文原稿の目安は論文10頁5,000語程度、研究ノート7頁3,000語程度とする。

3） 論文の初めに要旨をつけること。要旨の分量は日本語・中国語の場合は800字まで、その他の欧米語の場合は1,600字までとする。また、タイトルは、目次ページに記載する際使用言語に関わらず欧文和文両方を必要とする。

4） 要旨と図表などは上記１）の枚数に含まれるものとする。

4．執筆の手続き

- 2023年7月21日（金）までに執筆申込書を編集委員会宛に提出する。執筆申込なしに送付された原稿は受理されない。ただし、執筆者が海外在住の場合、執筆者が指導教官に申込書を提出し、指導教官が申込書を提出してもよい。
- 2023年10月23日（月）までに執筆者は指導教官に原稿を予備提出し、指導を受けておく。
- 2023年11月6日（月）までに編集委員会にメールで完成原稿（WordとPDF両方）と図表ファイル（ExcelやPPT）を提出する。

5．原稿の作成と提出

原稿は、編集委員指定の本要項を参照して作成し、表記等の校正作業については編集委員会に一任していただく。

原稿は完全原稿を提出すること。締切日を過ぎた原稿は受け付けない。完成原稿と原稿内で使用した図表を編集委員会にメール(g_bunka@kufs.ac.jp)で提出する。

完成原稿：WordとPDFの両方

原稿で使用した図表：ExcelやPPT

原稿は完全原稿を提出すること。締切日を過ぎた原稿は受け付けない。

6．校正

執筆者校正は原則として2回までとし、文章の大幅な加筆・修正は認めない。

7．原稿の採否

編集委員会によって決定される。

8．原稿の掲載

当該号の投稿論文数、その他の事情により、次号に繰り越す場合がある。

その場合、編集委員会は投稿者に連絡し、協議するものとする。

9．執筆申込先および原稿送付先

〒615−8558 京都市右京区西院笠目町6　京都外国語大学大学院事務室

『言語と文化』編集委員会　e-mail: g_bunka@kufs.ac.jp

10. その他

必要な事項については、編集委員会の議を経て決定する。

11. 著作権について

掲載原稿の著作権は、著者に帰属する。ただし、編集委員会は、掲載原稿を電子化し、公開・配布するための権利を有するものとする。

京都外国語大学『言語と文化』第17号

2023年3月15日　印刷
2023年3月15日　発行

編集兼　京都外国語大学大学院外国語学研究科
発行所　〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6